平成29年度
事 業 報 告 書

アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリー所蔵
「茨の冠を持つ聖カタリナ」

学校法人聖カタリナ学園

目　　次

Ⅰ．　はじめに　・・　1

Ⅱ．　法人の概要　・・　2

（1）名　　　　称
（2）所　　在　　地
（3）認 可 年 月 日
（4）理　　事　　長
（5）設置する学校・学部・学科等（平成 29 年 5 月 1 日現在）
（6）建 学 の 精 神
（7）法 人 の 目 的
（8）法 人 の 沿 革
（9）役員等の概要（平成 29 年 5 月 1 日現在）
（10）教職員の概要（平成 29 年 5 月 1 日現在）
（11）設置する学校の学部学科、入学･募集定員数、学生等数の状況（平成 29 年 5 月 1 日現在）

Ⅲ．　事業の概要　・・　7

（1）学園ガバナンスの充実・強化
（2）設置校別事業の概要

Ⅳ．　当期に行った主な事業　・・　31

（1）固定資産の取得状況（第1号基本金組入れ対象事業）
（2）教育研究経費の主な事業実績
（3）管理経費の主な事業実績

Ⅴ．　財務の概要　・・　32

（1）平成29年度決算概要
（2）平成29年度計算書類
　1）資金収支計算書（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）
　　※活動区分資金収支計算書（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）
　2）事業活動収支計算書（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）
　3）貸借対照表（平成 30 年 3 月 31 日現在）

【参考】 学校法人会計基準について

Ⅰ．はじめに

「人生 100 年時代」を迎えようとしている今、少子高齢化に伴うライフスタイルの多様化が教育機関の果たすべき役割や機能に大きな変化をもたらすことが想定されます。政府が立ち上げた「人生 100 年時代構想会議」は、『人づくり革命』を命題として、教育制度や雇用制度、社会保障制度などのあり方について議論を進めており(平成 30 年 3 月現在)、国民の教育に対する負担軽減や無償化、待機児童の解消、介護人材の処遇改善、リカレント教育、大学の構造改革などを重要な論点として、平成 30 年夏ごろには基本構想を打ち出すこととしています。

こうした時勢にあって、大学・短期大学・高等学校・幼稚園を擁する本学園が、ますます加速する社会の変化のスピードに呼応するため、今後いかなる方向性を見据えながら歩んでいくべきかを思料すると、貫くべきは、やはり、建学の精神を不変の価値基準とした教育の本質を念頭に置きながら、設置校それぞれが地域社会に開かれた教育機関として、社会からの要望に迅速且つ柔軟に応えていく姿勢であり、また、自らの社会的ミッションに挑戦し続ける姿勢です。

幼稚園においては、人格形成の礎となる時期である幼児期教育の実践者であることを自覚し、新・幼稚園教育要領の趣旨を理解し、小学校との接続を見据えた質の高い前期初等教育を提供するとともに、未就園児を対象とする教育活動の拡充などにより子育て支援の一翼を担うことが、その使命であると考えます。高等学校においては、変化への対応が求められる中、教育の改善と革新に果敢に挑戦し、生徒一人ひとりの個性や能力に応じた進学や就職に適切に対応する教育を行い、社会へ踏み出すための自立心や主体性を身に付けさせることが肝要です。大学及び短期大学部においては、福祉や介護、健康、看護、保育など、実学系の学科を有する高等教育機関にふさわしい教育サービスを提供することにより、専門職としての意識の高い人材を育成すること、また、他大学や行政機関、民間企業と連携・協力し、今までとは異なった教育システムの構築を行い、高齢者を含めた社会人教育などの拡充を図ることにより、学び直しや生涯学習の受け皿作りにも対応し得ることが必須となってきます。

本学園は現在、全設置校を挙げて「第 2 期中・長期経営計画（平成 28～32 年度)」に取り組んでおりますが、第 1 期から通算すると 7 年という歳月を経営改革へのエネルギーとして投入したことになります。これからも建学の精神のもと、目標達成への旺盛な意欲を推進力として、「人生 100 年時代」を支えるに足る教育機関へ成長して参りたく、関係各位におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

学校法人聖カタリナ学園
理事長　中田　婦美子

Ⅱ. 法人の概要

1. 名　　称　学校法人聖カタリナ学園（St. Catherine Educational Institution）

2. 所　在　地　愛媛県松山市北条660番地

3. 認可年月日　1951年(昭和26年)3月8日

4. 理　事　長　中田　婦美子

5. 設置する学校・学部・学科等

（平成 29 年 5 月 1 日現在）

NO	学　校　名	学(校･園)長名	設置認可年月日	所　在　地	男女別
1	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 ・社会福祉学科 ・人間社会学科 ・健康スポーツ学科 ・看護学科（※H29 新設）	ホビノ･サンミゲル	S62 年 12 月 23 日	愛媛県 (北条ｷｬﾝﾊﾟｽ) 松山市北条 (市駅ｷｬﾝﾊﾟｽ) 松山市永代町	共学校
2	聖カタリナ大学短期大学部 ・保育学科	ホビノ･サンミゲル	S41 年 1 月 25 日	愛媛県 松山市北条	共学校
3	聖カタリナ学園高等学校 ・普通科 ・総合学科 ・看護科 ・看護専攻科	芳野　敬三	S23 年 3 月 21 日	愛媛県 松山市藤原町	共学校
4	京都聖カタリナ高等学校 ・普通科 ・福祉科（※H28～募集停止） ・看護科 ・看護専攻科	小林　豊	S26 年 10 月 17 日	京都府 南丹市園部町	共学校
5	光ヶ丘女子高等学校 ・普通科 ・国際教養科	小林　三佐子	S38 年 3 月 20 日	愛知県 岡崎市大西町	女子校
6	聖マリア幼稚園	梅木　信子	S26 年 3 月 8 日	愛媛県 新居浜市繁本町	共学校
7	聖家族幼稚園	江川　由美子	S29 年 3 月 20 日	京都府 南丹市園部町	共学校
8	聖カタリナ幼稚園	星野　香里	S38 年 3 月 20 日	愛知県 岡崎市大西町	共学校
9	ロザリオ幼稚園	田口　裕子	S40 年 3 月 15 日	愛媛県 松山市室町	共学校
10	聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	藤井　澄子	S46 年 3 月 26 日	愛媛県 松山市北条	共学校

（※）聖カタリナ学園高等学校は、平成 28 年度からの男女共学化(看護科・専攻科除く)に伴い、校名が「聖カタリナ女子高等学校」から変更されたほか、所在地は、キャンパス統合により「愛媛県松山市藤原町」となった。

6. 建 学 の 精 神

本学は、聖ドミニコ宣教修道女会の設立によるもので、キリスト教の世界観、修道会の創立者聖ドミニコの「真理を観想し、観想の実を他に与える」という精神、そして、聖ドミニコの精神に従って生きたシエナの聖カタリナの模範と教訓を土台として、「建学の精神」を次のように定めている。

1. 本学は、キリスト教的世界観と教育理念に基づいて、世界の平和と人類の共通善を促進する人間の教育を目的とする。
2. 本学は、創立者聖ドミニコの強調した「真理の探求」を通して、普遍的な価値観と高い徳性を有する人間を育成する。
3. 本学は、保護者シエナの聖カタリナの精神と学識にならい、神の愛と人への奉仕に生涯を捧げる人間を育成する。

7. 法 人 の 目 的

学校法人聖カタリナ学園は、カトリック教の精神を奉じ、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、世界の平和と人類の共通善を促進する人材を育成することを目的としている。

8. 法 人 の 沿 革

1924	(大正 13)年	9 月	松山美善女学校設置認可(聖ドミニコ宣教修道女会)
1942	(昭和 17)年	1 月	財団法人松山女子商業学校と改称
1948	(昭和 23)年	4 月	松山女子商業高等学校と改称(商業科)、新制中学校併設
1951	(昭和 26)年	3 月	学校法人聖カタリナ学園に改組
1951	(昭和 26)年	4 月	聖マリア幼稚園(愛媛県新居浜市)を学園に包括
1951	(昭和 26)年	10 月	学校法人清香学園菊花女子高等学校を吸収合併、聖家族女子高等学校設置（家庭科)(京都府船井郡園部町)
1952	(昭和 27)年	4 月	聖家族女子高等学校に普通科増設
1954	(昭和 29)年	4 月	聖家族幼稚園設置(京都府船井郡園部町)
1963	(昭和 38)年	4 月	光ヶ丘女子高等学校設置(普通科)(愛知県岡崎市)、聖カタリナ幼稚園設置（愛知県岡崎市)
1965	(昭和 40)年	4 月	学校法人拓川学園拓川幼稚園を吸収合併　ロザリオ幼稚園と改称（愛媛県松山市)
1965	(昭和 40)年	4 月	聖カタリナ幼稚園教員養成所設置(愛媛県松山市)、昭和 42 年 3 月、同養成所廃止
1966	(昭和 41)年	1 月	文部大臣所轄の法人となる聖カタリナ女子短期大学設置（幼児教育科、食物科)
1966	(昭和 41)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学開学、幼児教育科、食物科(愛媛県北条市)
1966	(昭和 41)年	4 月	松山女子商業高等学校に普通科増設
1967	(昭和 42)年	4 月	松山女子商業高等学校に衛生看護科増設
1968	(昭和 43)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に音楽科増設(入学定員 50 名)、幼児教育科を児童教育科に名称変更
1968	(昭和 43)年	4 月	松山女子商業高等学校を聖カタリナ女子高等学校と改称、併設中学校閉校
1970	(昭和 45)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に衛生看護専攻科(2 年制)設置
1971	(昭和 46)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育科を児童教育学科、食物科を食物学科に改称、児童教育学科(50 名)を初等教育学専攻(50 名)、幼児教育学専攻(50 名)に分離し、入学定員変更
1971	(昭和 46)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園設置
1976	(昭和 51)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科幼児教育学専攻の入学定員を変更(50 名→100 名)
1977	(昭和 52)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に専攻科音楽専攻(1 年制)設置
1980	(昭和 55)年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護科設置
1983	(昭和 58)年	3 月	聖家族女子高等学校家庭科廃止
1987	(昭和 62)年	12 月	聖カタリナ女子大学設置(入学定員 100 名)
1988	(昭和 63)年	4 月	聖カタリナ女子大学(社会福祉学部社会福祉学科)開学
1990	(平成 2)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学児童教育学科の専攻（初等教育学専攻、幼児教育学専攻)を廃止し、幼児教育学科に名称変更

1990	(平成 2)年	4 月	法人の主たる事務所を愛媛県北条市北条 660 番地に変更
1994	(平成 6)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科を食物栄養学科に名称変更及び入学定員変更(150 名→90 名)
1994	(平成 6)年	4 月	聖カタリナ女子大学入学定員変更(100 名→160 名)
1995	(平成 7)年	3 月	聖カタリナ女子短期大学食物学科廃止
1995	(平成 7)年	4 月	聖カタリナ女子大学キリスト教研究所及び人間文化研究所設置
1996	(平成 8)年	4 月	聖家族女子高等学校普通科入学定員変更(90 名→80 名)
1997	(平成 9)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科編入学定員設定(3 年次 10 名)
1999	(平成 11)年	4 月	聖家族女子高等学校に衛生看護専攻科(2年制)設置(入学定員 40 名)
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子大学社会福祉学部社会福祉学科を社会福祉専攻(入学定員 140 名)と介護福祉専攻(入学定員 20 名)に専攻分離
2000	(平成 12)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学食物栄養学科を健康栄養学科に名称変更し、食物栄養専攻(50 名)と食物健康専攻(40 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖家族女子高等学校を京都聖カタリナ女子高等学校と改称
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学に幼児教育学科及び音楽科を統合改組して保育学科を設置し、乳幼児教育専攻(100 名)と音楽専攻(50 名)に専攻分離
2001	(平成 13)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学専攻科音楽専攻廃止
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を看護科(入学定員 80 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校衛生看護科を高等看護科(入学定員 40 名)に名称変更し、5 年一貫教育による看護師養成を導入
2002	(平成 14)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学音楽科廃止
2003	(平成 15)年	9 月	聖カタリナ女子短期大学幼児教育学科廃止
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子大学を男女共学とし、聖カタリナ大学に名称変更 聖カタリナ大学社会福祉学部に福祉経営学科(入学定員 100 名、3 年次編入学定員 10 名)を設置し、社会福祉学科社会福祉専攻の入学定員変更(140 名→100 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学を男女共学とし、聖カタリナ大学短期大学部に名称変更 聖カタリナ大学短期大学部保育学科及び健康栄養学科の各専攻(乳幼児教育専攻、音楽専攻、食物栄養専攻、食物健康専攻)を廃止し、入学定員変更(保育学科:150 名→100 名、健康栄養学科 90 名→50 名)
2004	(平成 16)年	4 月	聖カタリナ女子短期大学附属幼稚園を聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
2005	(平成 17)年	1月	市の合併により、法人の主たる事務所の住所表記を愛媛県松山市北条 660 番地に変更
2005	(平成 17)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校に福祉科(入学定員 40 名)を設置し、普通科の入学定員変更(80 名→40 名) 高等看護科を看護科に名称変更
2006	(平成 18)年	1 月	町の合併により、法人の従たる事務所の住所表記を変更 京都府船井郡園部町美園町一号 78 番地 → 京都府南丹市園部町美園町一号 78 番地
2006	(平成 18)年	4 月	京都聖カタリナ女子高等学校の福祉科を男女共学とし、京都聖カタリナ高等学校に名称変更
2007	(平成 19)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の看護科を男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	聖カタリナ大学に人間健康福祉学部を設置し、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 100 名、編入学定員 10 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]と健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 100 名、編入学定員10名)を設置(これに伴い、社会福祉学部は在学生の卒業を待って廃止)
2008	(平成 20)年	4 月	京都聖カタリナ高等学校の普通科にコース制(フードカルチャーコース、マルチメディアコース、キッズライフコース)を導入し、男女共学化
2008	(平成 20)年	4 月	光ヶ丘女子高等学校の普通科から国際コースを分離し、国際教養科(入学定員 120 名)設置(それに伴い、普通科の入学定員 195 名に変更)
2009	(平成 21)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科の学生募集を停止

2010	(平成 22)年	4 月	聖カタリナ大学短期大学部健康栄養学科廃止
2011	(平成 23)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に人間社会学科(入学定員 50 名)を設置(これに伴い、人間健康福祉学部の入学定員を 210 名に変更)
2012	(平成 24)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校に総合学科(入学定員 450 名)を設置し、商業科の学生募集を停止
2012	(平成 24)年	9 月	聖カタリナ大学社会福祉学部廃止
2013	(平成 25)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部の入学定員を、社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]、健康福祉マネジメント学科[福祉マネジメント専攻、健康スポーツマネジメント専攻](入学定員 60 名、編入学定員 8 名)、人間社会学科(入学定員 50 名、編入学定員 4 名)に変更
2014	(平成 26)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康福祉マネジメント学科の学生募集を停止 聖カタリナ大学人間健康福祉学部に健康スポーツ学科(入学定員 60 名)を設置 聖カタリナ女子高等学校商業科廃止
2016	(平成 28)年	4 月	聖カタリナ女子高等学校の普通科及び総合学科を男女共学とし、聖カタリナ学園高等学校に名称変更。同校の普通科及び総合学科の入学定員変更(普通科 200 名、総合学科 300 名) 京都聖カタリナ高等学校の看護科の入学定員を64名に変更し、福祉科の生徒募集を停止
2017	(平成 29)年	4 月	聖カタリナ大学人間健康福祉学部に看護学科[入学定員80名]を設置(平成28年8月 31 日認可)し、入学定員を社会福祉学科[社会福祉専攻(入学定員 50 名、編入学定員 8 名)、介護福祉専攻(入学定員 20 名)]に変更

9. 役員等の概要

(平成 29 年 5 月 1 日現在、単位:人)

内　訳	理　事	監　事	評議員
定　　数	9	2	19
現　　員	9	2	19

10. 教職員の概要

(平成 29 年 5 月 1 日現在、単位:人)

学 校 の 名 称	教　員		職　員		合　計	
	専 任	非常勤	専 任	非常勤	専 任	非常勤
法人本部事務局	―	―	6	1	6	1
聖カタリナ大学	50	92	28	37	78	129
聖カタリナ大学短期大学部	11	17	7	5	18	22
聖カタリナ学園高等学校	77	89	12	12	89	101
京都聖カタリナ高等学校	28	28	4	12	32	40
光ヶ丘女子高等学校	56	31	7	17	63	48
聖マリア幼稚園	12	8	0	6	12	14
聖家族幼稚園	6	8	1	4	7	12
聖カタリナ幼稚園	11	9	0	4	11	13
ロザリオ幼稚園	11	8	1	5	12	13
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園	5	2	0	5	5	7
合　　計	267	292	66	108	333	400

11. 設置する学校の学部学科、入学・募集定員数、学生生徒等数の状況

（5 月 1 日現在、単位：人）

学 校 の 名 称	学　科	平成 29 年度 入学・募集定員	平成 29 年度 現員	［参考］平成 30 年度 入学・募集定員	［参考］平成 30 年度 現員
聖カタリナ大学 人間健康福祉学部	社会福祉学科	70	209	70	208
	健康福祉マネジメント学科	募集停止中	4	募集停止中	2
	人間社会学科	50	189	50	212
	健康スポーツ学科	60	218	60	220
	看護学科　※H29 新設	80	64	80	133
	計	260	684	260	775
聖カタリナ大学短期大学部	保育学科	100	221	100	201
	計	100	221	100	201
聖カタリナ学園高等学校	普通科	200	361	200	375
	総合学科	240	729	240	783
	看護科	40	167	40	136
	看護専攻科	(80)	106	(80)	102
	計	480	1,363	480	1,396
京都聖カタリナ高等学校	普通科	40	101	40	106
	福祉科	募集停止中	12	廃　止	―
	看護科	64	162	64	156
	看護専攻科	(40)	88	(40)	95
	計	104	363	104	357
光ヶ丘女子高等学校	普通科	195	832	195	872
	国際教養科	120	331	120	331
	計	315	1,163	315	1,203
聖マリア幼稚園			222		241
聖家族幼稚園			61		62
聖カタリナ幼稚園			210		214
ロザリオ幼稚園			161		160
聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園			62		51
合　　計			4,510		4,660

（注）平成 29 年度より、聖カタリナ大学は看護学科(入学定員 80 名)を新設し、社会福祉学科の入学定員を 70 名（10 名減員）としたほか、聖カタリナ学園高等学校は募集定員を総合学科 240 名（40 名増員）、看護科 40 名(40 名減員)に変更した。

Ⅲ. 事業の概要

1　学園ガバナンスの充実・強化

1. 理事会・評議員会の開催状況

本年度は、理事会が 17 回、評議員会が 5 回開催され、単年度の事業計画や予算・決算、人事(採用)計画、施設設備等整備事業、各種規程の制(改)定などのほか、中・長期経営計画による経営改善への取り組みなど、重要な事案が適宜審議・報告された。また、本学園設置校において発生した体罰及びハラスメント問題への対応を審議したほか、理事会(理事長)主導にて、当該設置校の教職員並びに在校生を対象としたアンケートを実施するなどして、係る不祥事の再発防止に向けた具体的対応を始動させた。

なお、理事・評議員及び監事の出席状況は各回良好で、欠席理事・評議員がある場合には、議事録(写)により遺漏無く審議結果の報告を行っている。

2.「第 2 期中・長期経営計画」2 年目の取り組みが進行

「第 2 期中・長期経営計画(平成 28～32 年度)」の 2 年目に当たる本年度は、PDCAサイクルの更なる定着を年度テーマとして、設置校 10 校がそれぞれの経営改善上の課題に取り組んだ。その進捗状況を点検する機会として、「中・長期経営計画委員会(推進担当者会議)」の高校部会を平成 29 年 6 月 30 日(金)に、大学短大部会を 7 月 6 日(木)に、学園全体の本委員会を 12 月 1 日(金)にそれぞれ開催したほか、平成 29 年度第 7 回理事会(平成 29 年 9 月 29 日開催)において、各設置校から提出された計画実施管理表に基づいて「第 2 期中・長期経営計画」の実施状況が詳細に報告され、また、経営改善を確実に進めるため、コスト管理の徹底について確認された。

3. 理事長ヒアリングを再開

平成 27 年度より休止中であった理事長ヒアリングが再開された。平成 29 年 9 月 4 日(月)～21 日(木)の間、理事長が全設置校に赴き、各校の運営の現状について管理職者と情報・意見交換を行ったほか、次年度に向けて今後取り組むべき重要課題や予算編成方針等について共有化を図った。理事長ヒアリングの内容については、法人本部において内容記録として取り纏められたほか、平成 29 年度第 7 回理事会(平成 29 年 9 月 29 日開催)において、理事長より設置校別に総括され、共有化が図られた。

平成 30 年度も引き続き実施する計画にあるが、これまで経営幹部中心であったヒアリング対象者を見直し、より運営現場に近い教職員とする方向で調整を進めている。

4. 聖カタリナ大学看護学科設置に係る寄附行為変更認可後の履行状況を報告

平成 29 年 9 月 12 日付にて文部科学省私学行政課宛提出した、聖カタリナ大学人間健康福祉学部看護学科に係る「寄附行為(変更)認可後の財政状況及び施設等整備計画の履行状況報告書」について、文部科学省より「改善意見」の付された調査結果が通知(平成 30 年 2 月 23 日付)されたことを受け、同省と協議したうえで所定の手続きを行った。

5. 全設置校において「財務状況等説明会」を実施

全設置校の専任教職員を対象に「平成 29 年度財務状況等説明会」を開催した。大学・短期大学部については法人本部事務局と合同にて平成 29 年 9 月 26 日(火)に、3 高校については各校の職員会議などにおいて 9 月末日までに、5 幼稚園については理事長ヒアリングの前後の時間を利用して 9 月 4 日(月)～21 日(木)までの間に順次実施し、平成 28 年度決算(学園全体及び各設置校)の報告や中・長期経営計画による経営改善状況の確認等を行った。同説明会を通じて、自校(園)のみならず学園全体の経営状況に関する教職員の理解浸透を図っている。

6. 三様監査の充実

1）監査人監査

本年度上半期財務状況に係る監査人監査が、平成 29 年 10 月 18 日(水)～11 月 9 日(木)の間で設置校別に実施され、監査結果報告書に纏められ、監事監査結果とともに平成 29 年度 11 月評議員会・理事会(平成 29 年 12 月 2 日開催)において報告された。なお、本年度決算に係る監査人監査は、平成 30 年 3 月中旬からの設置校別の予備監査、その後の本監査及び集計監査を経て監査報告書として取り纏められ、平成 29 年度の事業実績や計算書類とともに、平成 30 年度 5 月理事会・評議員会(平成 30 年 5 月 26 日開催)において報告される予定にある。

2）監事監査

本年度監事監査は、「平成 29 年度監事監査計画」に基づき、財務理事や法人職員、設置校の教職員との情報・意見交換や設置校に直接赴くなどして実施された。

また、監事 2 名の内 1 名が、平成 29 年 10 月 31 日(火)に開催された文部科学省主催の「平成 29 年度学校法人監事研修会」(兵庫会場)を受講し、学校法人のガバナンスにおける監事の役割や私学行政の現状等についての理解を深め、監事監査の実効化に向けた監査内容の見直しに活用した。

3）内部監査

本年度内部監査は、「平成 29 年度内部監査計画」に則り、各設置校のICT化や情報保全状況等、情報セキュリティに関する現状把握のため、教職員を対象に、「情報セキュリティに関するチェックシート」を事前調査として実施したほか、これまでに実施された監査の指摘（検討）事項に対する改善状況についてフォロー監査を実施した。これらの内部監査の結果は、平成 29 年度 3 月理事会（平成 30 年 3 月 24 日開催）において報告され、主任内部監査担当者（財務理事）より、今後の情報セキュリティ強化に向けた対策を要請したほか、監査における指摘(検討)事項への早期対応を促した。

7. 経理規程等の一部改正

有形固定資産の取得に係る理事長から経理主任への委任の範囲を見直し、改定したほか、特定資産の取得に係る伺い書の様式を新たに定めるなど、関連する諸規程の一部改正を行った(平成 30 年 4 月 1 日施行)。また、固定資産の取得に係る見積もり比較の金額基準について引き上げの要望があったが、公益法人として厳正な会計処理が求められていることから現行のままとし、改定しないこととした。

8. 幼稚園の給与規程の一部改正

かねてより懸案であった幼稚園教職員の待遇改善を図るため、愛媛県内の 3 幼稚園(聖マリア幼稚園・ロザリオ幼稚園・聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園)及び聖家族幼稚園の給与規程の一部改正案を法人本部にて策定し、幼稚園連絡協議会（平成 29 年 11 月 17 日開催）での審議を経て、平成 30 年 2 月 21 日開催の理事会に付議し、承認された。なお、施行日は平成 30 年 4 月 1 日とした。

また、同 4 幼稚園については、平成 29 年度限りの待遇改善に係る特別措置として、平成 30 年 3 月 15 日、愛媛県及び京都府からの助成金を原資とする年度末手当を対象となる教職員へ支給した。

9. 無期転換ルールへの対応

改正労働契約法（平成 25 年 4 月 1 日施行）による「無期労働契約転換ルール」に対応するため、平成 30 年 4 月 1 日施行に向けた就業規則の改正・整備を各設置校において実施し、適正・適法な運用を行うよう理事会において確認した。

10. 障害者雇用の促進

「障害者の雇用の促進等に関する法律」（＝障害者雇用促進法）により義務付けられた法定雇用率の達成に向け、各設置校における障害者雇用への取り組みを理事会主導にて進めた結果、本年度末までに複数名の障害者を採用するに至った。平成 30 年度には法定雇用率が引き上げられることもあり、「社会連帯の理念に基づき」(障害者雇用促進法第 37 条)、学園としての社会的責務を果たすため、引き続き雇用状況の改善を図っていくこととしている。

2　設置校別　事業の概要

■大学・短期大学部関連

【教育・研究】

1. 平成 29 年 4 月「看護学科」を開設

平成 29 年 4 月 1 日(土)、本学人間健康福祉学部の新たな学科として、松山市駅キャンパス(松山市永代町)に看護学科が開設され、64 名の第 1 期生が入学した。翌 4 月 2 日(日)には、学外からの来賓を含め多数の参列者を迎え、新校舎竣工式(写真)並びに内覧会が開催された。本学科は、松山赤十字病院との協力協定のもと、既設 3 学科との連携により人間健康福祉学部が有する教育資源を活かした独自性のある看護教育を推進する。

2. 聖カタリナ大学短期大学部創立 50 周年・聖カタリナ大学創立 30 周年の記念式典を開催

平成 29 年 10 月 21 日(土)、聖カタリナ大学短期大学部創立 50 周年・聖カタリナ大学創立 30 周年の記念式典が聖カタリナホールにおいて開催された。式典には、本学教職員・学生のほか、各界からの来賓ら約 800 人が出席した。式典の冒頭、主の祈り、聖書朗読が行われた後、学長及び理事長より挨拶があった。続く来賓祝辞では、愛媛県知事及び松山市長(共に代読)、聖ドミニコ宣教修道女会日本管区長　中山紀美子シスターより祝辞が述べられ、最後に教職員・学生全員で学歌を斉唱した。休憩後、東京純心大学教授・東京大学名誉教授　宮本久雄氏による「ドミニコ会の共育」と題した記念講演が行われた(写真)。第二部の祝賀会では、学生食堂に会場を移し、和やかな雰囲気の中、参加者で喜びを分かち合った。

3. 本学研究叢書が愛媛出版文化賞を受賞

本学研究叢書第 4 集「癒し　地域包括ケア研究」(創風社出版)が、平成 29 年度第 33 回愛媛出版文化賞・第 1 部門(研究・評論)の部門賞を受賞した。本書は、聖カタリナ大学開学 30 周年・聖カタリナ大学短期大学部開学 50 周年を記念して発刊した記念論文集で、本学教員をはじめとする健康・福祉・看護・保育の各領域の専門家が執筆した 14 編の論文を掲載し、県内の高齢者ケアの現状などを踏まえ、住み慣れた地域で心豊かに暮らし続けるための課題を提言している。

4. GPA 制度を導入

成績評価基準を明示し単位制度の実質化を促進するため、GPA制度導入準備会議が中心となって策定された「聖カタリナ大学 GPA に関する規程」及び「聖カタリナ大学短期大学部 GPA に関する規程」が平成 29 年 4 月 1 日から施行されている。今後、教員や学生・保護者へのさらなる周知徹底を図り、効果的な活用につなげていくこととしている。

※GPA 制度:授業科目ごとの成績評価を、例えば 5 段階(A、B、C、D、E)で評価し、それぞれに対して、4、3、2、1、0 のように数値(グレード・ポイント:GP)を付与し、この単位あたりの平均(グレード・ポイント・アベレージ:GPA)を出して、その一定水準を卒業等の要件とする制度(文部科学省 HP より引用)。

5. 前年度FD活動実績を報告

平成 29 年度第 2 回大学教授会(平成 29 年 5 月 10 日(水)開催)及び第 1 回短大教授会(平成 29 年 4 月 1 日(土)開催)において、各 FD 委員長より、平成 28 年度 FD 活動に係る実績報告が行われた。前年度に実施された FD 活動として、新任教員研修や公開授業、学生による授業評価アンケート、授業改善調査(前期・後期)、外部講師によるアクティブラーニング手法に関する研修会などのほか、大学・短期大学部創立記念事業として研究叢書「癒し地域包括ケア研究」が出版されたことについて報告が行われ、本年度も引き続き、SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)研修への参加や教員公開授業の参観などに積極的に取り組むよう要請があった。

6. 学内 FD 研修会を実施

平成 29 年度学内研修として、平成 30 年 2 月 22 日(木)、愛媛大学から講師を招いて、「大学教職員のための危機管理」をテーマとした FD 研修会を実施し、多くの教員が参加した。

7. 平成 29 年度授業公開

大学・短期大学部はそれぞれ以下の日程で、本年度前期・後期の授業を本学学生の保護者及び教職員対象に公開した。この授業公開は、FD 活動の一環として授業の改善を目的に毎年定期的に実施されており、教育の質向上の一助としている。

・大　学:(前期)平成 29 年 6 月 1 日(木)～6 月 21 日(水)、(後期)11 月 1 日(水)～11 月 21 日(火)

・短　大:(前期)平成 29 年 6 月 19 日(月)～7 月 7 日(金)、(後期)11 月 28 日(火)～12 月 18 日(月)

8. SD 活動

学外における SD 活動として、平成 29 年 8 月 23 日(水)～25 日(金)の 3 日間、「SPOD フォーラム 2017」が徳島大学常三島キャンパスにおいて開催され、本学からは事務職員 5 名が参加した。また、学内における SD 活動として、9 月 1 日(金)に夏季 SD 研修会が「コミュニケーション力を高めるセルフケア」をテーマに、また、12 月 27 日(水)に冬季 SD 研修会が「高大接続改革の現状と入試改革の動向」及び「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」をテーマにそれぞれ実施され、参加者は、各テーマについて専門家による講義やグループワークを通して理解を深めた。なお、これらの SD 研修会には、大学及び短期大学部の教員も自発的に参加している。

9. 保育学科生がサービスラーニング

○平成 29 年 11 月 4 日(土)、レクリエーション・インストラクターの資格取得を希望する保育学科の学生約 30 名が、ひめぎんホールで開催された「平成 29 年度愛媛県県民総合文化祭・子ども伝統文化フェスタ」のイベント運営に協力した。当日は、「むかしのあそび体験コーナー」を運営し、来場した約 500 名の親子と接する中、日ごろの学びの手ごたえを感じていた。

○平成 29 年 11 月 11 日(土)、保育学科の学生 33 名が、城山公園やすらぎ広場で開催された「第 21 回あそぼうフェスタ」(松山市児童館合同事業)の運営に協力した。このイベントは松山市社会福祉事業団が毎年開催している恒例イベントで、レクリエーション指導実習の授業の一環としてレクリエーション・インストラクターの資格取得を希望する学生が毎年協力している。学生担当のコーナーでは、「箱パズルあそび」と「お手玉なげ」の企画・運営を行い、授業で学んだ内容を実践する好機となった。

○平成 30 年 3 月 21 日(水・祝)、保育学科の学生がエミフル MASAKI で開催された「こどものゆめプロジェクト・こどものいのちと体を守るお仕事体験」(特定非営利活動法人ラ・ファミリエ主催)のイベント運営に協力した。当日は、子どものあそび体験の運営を行い、参加した約 500 名の親子と共に、身近な素材を使ったおもちゃ作りを楽しんだ(写真)。

10. 資格試験等の合格状況

平成 29 年度の主な資格試験等の合格状況は以下の通りである。

○平成 29 年度健康運動指導士認定試験(公益財団法人健康・体力づくり事業財団)

認定試験が平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)に実施され、健康スポーツ学科の学生 5 名が受験し、4 名が合格した。

○平成 29 年度介護福祉士国家試験

筆記試験が平成 30 年 1 月 28 日(日)に、実技試験が 3 月 4 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 9 名が受験し、8 名が合格した。

○平成 29 年度社会福祉士国家試験

平成 30 年 2 月 4 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 16 名が受験し、9 名が合格した。

○平成 29 年度精神保健福祉士国家試験

平成 30 年 2 月 3 日(土)・4 日(日)に実施され、社会福祉学科 4 年生 7 名が受験し、2 名が合格した。

○平成 29 年度産業カウンセラー試験(一般社団法人日本産業カウンセラー協会主催)

学科試験が平成 30 年1月 21 日(日)に、実技試験が1月 27 日(土)・28 日(日)に実施され、人間社

会学科 3 年生及び 4 年生 9 名が受験し、5 名が合格した。

11. 平成 29 年度卒業生の就職状況

平成 29 年度卒業生の就職状況（就職率）は、学内における就職支援の充実や前年度からの「売り手市場」が続いていることもあり、大学は 95.1%という高水準を記録した。学科別では、社会福祉学科 92.3%（社会福祉専攻 90.0%、介護福祉専攻 100.0%）、人間社会学科 95.2%、本年度第 1 期目の卒業生を送り出した健康スポーツ学科は 97.6%となった。また、短期大学部（保育学科）の就職率についても 5 年連続 100%となり、内定者のうち保育専門職に就く学生の割合は 96.9%と大変高い比率となった。

【学生支援】

12. 学内宗教行事を開催し、学生を顕彰

○平成 29 年 5 月 17 日（水）、北条キャンパス及び松山市駅キャンパスの両キャンパスにおいて、聖母マリアをたたえる宗教行事である「母をたたえる日の集い」が催され、聖母行列や学長講話、学生による献花、共同祈願等が行われた後、北条キャンパスでは、後援会奨励金の授与式が行われ、学業・人物ともに優れているとして、人間健康福祉学部 6 名、保育学科 2 名の学生に対し後援会長から奨励金が授与された(写真)。

○平成 29 年 12 月 20 日(水)、聖カタリナホールで学内クリスマスが開催された。当日は、学長の司式によるクリスマスミサが行われた後、聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の園児による歌の発表があり、次いで、本年度、スポーツ、ボランティア活動、文化活動等において活躍した学生及び団体に対し、「学長賞」の授与が行われた。その後、会場を体育館に移して、学友会主催のクリスマス会が開催され、各サークルの発表や豪華賞品が当たる恒例のお楽しみ抽選会があり、大盛況の内に終了した。

13. 学内就職相談会・説明会を開催

○学内福祉就職相談会：福祉専門職として就職を志望する学生に対し福祉事業所等の採用担当者と直接話す機会を設け、その後の就職活動に役立ててもらうことを目的として、平成 29 年 7 月 1 日(土)、大学 3･4 年生及び短大 2 年生を対象とした「福祉就職相談会」を開催した。当日は、大学生 40 名、短大生 5 名が参加し、愛媛県内外から参加した 35 の事業所のブースを積極的に回り、担当者の説明に熱心に耳を傾けた。

○学内合同企業説明会：平成 30 年 3 月 23 日(金)、大学 2･3 年生及び短大 1 年生を対象に、愛媛県内の一般企業を中心に 32 の企業・事業所の人事担当者を招いて「学内合同企業説明会」を開催した。当日は大学生 85 名が参加し、参加した学生からは多くの前向きな声を得ることができた。

14. 学生対象アンケートを実施

○平成 28 年度卒業生対象：平成 29 年度第 3 回大学教授会（平成 29 年 6 月 7 日（水）開催）及び第 3 回短大教授会（平成 29 年 6 月 7 日(水)開催）において、学生生活委員会より、平成 28 年度卒業生を対象とした学生生活満足度調査（平成 29 年 3 月 15 日(水）卒業式当日実施）の結果報告が行われ、分析結果を今後の教育活動や学生支援などに活かしていくことが確認された。

○平成 29 年度入学生対象：平成 29 年度第 8 回大学教授会（平成 29 年 11 月 8 日（水）開催）及び第 8 回短大教授会（平成 29 年 11 月 1 日（水）開催）において、入試・募集委員会より、平成 29 年度入学生を対象とした進路選択に係るアンケートの結果報告が行われた。

○平成 29 年度在学生対象：平成 29 年度第 10 回大学教授会（平成 29 年 12 月 13 日（水）開催）及び第 10 回短大教授会（平成 29 年 12 月 6 日（水）開催）において、学生生活委員会より、大学 2 年生及び短大 1 年生を対象とした学生生活満足度調査（平成 29 年 9 月 21 日（木）後期履修ガイダンス当日実施）の結果報告が行われ、分析結果を修学支援に反映していくことが確認された。

15. 平成 28 年度学生相談室活動状況報告

平成 29 年度第 3 回大学教授会（平成 29 年 6 月 7 日（水）開催）及び第 3 回短大教授会（平成 29 年 6 月 7 日(水)開催）において、学生相談室より前年度の学生相談室の活動状況が報告された。授業期間中は原則として、週 3 日開室され、スクールソーシャルワーカー（SSW）による安定した相談業務と教職員と

の連携が確認された。なお、本年度より 2 キャンパスとなったため、SSW 相互や教職員間の連携の取り方について検討し、柔軟で安定した相談室運営を図っている。

16. 学長と学生との懇談会を実施

平成 30 年 2 月 16 日(金)、平成 29 年度「学長と学生の懇談会(第 17 回)」を開催した。懇談会では、大学関係者として学長、副学長、人間健康福祉学部長、学生部長(大学・短大)が出席し、学生と軽食をとりながらリラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行った。この懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催されており、学生から寄せられた意見や要望については、学内で検討し、学習環境(施設設備)や授業内容などの様々な改善に反映していくこととしている。

17. 保育学科による「初心者のためのピアノ教室」が開講

平成 30 年 3 月 12 日(月)、保育学科の入学前教育として「初心者のためのピアノ教室」を開講した。この講座は、[AO 入試]や[推薦入試]の合格者のうちピアノ初心者を対象に、入学前にピアノの基礎を学び、大学での学習がスムーズに行えることを目的に毎年開催され、苦手意識の克服に役立つと、入学者から好評を得ている。

【高大連携】

18. 松山まつりで高大連携ブース出店

平成 29 年 8 月 11 日(金)～13 日(日)の 3 日間、松山まつり「まつこいパーク」において、本学(大学・短期大学部)及び聖カタリナ学園高等学校の教職員が協力してチャリティゲーム大会の学園ブースを出店し、親子連れをはじめ多くの来場者があった。なお、チャリティゲームで得た収益金や募金 148,010 円は、松山市社会福祉協議会まごころ銀行を通して全額寄付された。

19. 松山まつり・野球拳おどりで「聖カタリナ学園連」が優勝

平成 29 年 8 月 12 日(土)の松山まつり「野球拳おどり～団体連の部～」において、本学(大学・短期大学部)及び聖カタリナ学園高等学校の学生・生徒と教職員により結成された『聖カタリナ学園連』が優勝を果たした。

20. カタリナフェスティバル in エミフルMASAKIを開催

平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)10:00～16:00、エミフルMASAKIエミモール1階・グリーンコートにおいて、「カタリナフェスティバル in エミフルMASAKI」を開催した。大学及び短期大学部、聖カタリナ学園高等学校、聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園の学生・生徒・園児によるステージ発表、大学・高校の学科別体験コーナーや学校紹介を行ったほか、松山赤十字病院との協力協定の一環として、愛媛県赤十字血液センターによる献血活動も行われた。

【社会貢献・地域連携】

21. 地域連携活動促進に係る規程を制定

地域連携や社会参加活動を促進するための総合窓口として「地域連携推進室」の設置が決定され、係る規程が制定された(平成 29 年 4 月 1 日施行)。今後は、同推進室が中心となって、本学学生及び教職員と地域社会や地元企業との連携協働事業を推進していく。

22. 平成 29 年度年度愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学「風早の塾」を開講

平成 29 年 10 月 6 日～平成 30 年 1 月 20 日の間、愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学公開講座「平成 29 年度風早の塾」が開催された。前年度のテーマ「超高齢社会にいきる」のコンセプトを引き継ぎ、本年度は、「地域の人々とともに看て護る社会を創ろう」をメインテーマに掲げ、本学看護学科の教育研究活動の拠点である松山市駅キャンパスを会場に全 11 回の講座を開講し、延べ 546 名の参加を得た。

23. 松山市文化・スポーツ振興財団と連携に関する協定を締結

平成 29 年 12 月 12 日（火）、公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団と本学との連携に関する協定調印式が松山市駅キャンパスで行われ、同財団理事長　中山紘治郎氏と本学学長が協定書を交わした(写真)。
今後は、同財団と連携協力しながら、北条地域を中心に、本学の専門性を活かした健康づくりや健康指導、スポーツイベントなどを共同開催していく予定である。

24.「まつやまシニアカレッジ」が開講

松山市社会福祉協議会との共同企画プロジェクトとして本年度で13回目となる「まつやまシニアカレッジ」が平成 29 年 5 月 19 日(金)から開講し、松山市在住の 60 歳以上の 48 名が入学した。同講座は、高齢者向けのカリキュラムにより、知識獲得意欲を向上させる機会を持ってもらうと同時に、附属図書館や学生食堂、ヘルスプロモーションセンター“サルーテ”など大学施設の利用のほか、大学祭に参加するなど学生生活の一端を体験してもらおうとするもので、12 月 8 日(金)までの開講中、「生きがい」や「老いがい」「健康づくり」などをテーマに本学教員による全 10 回の講義が行われた。

25.「リカレント教育訓練（保育士養成コース）」受講生受け入れを決定

短期大学部では、平成 29 年度第 6 回教授会（平成 29 年 9 月 27 日（水）開催）において、平成 30 年 4 月から、愛媛県の実施する「リカレント教育訓練（保育士養成コース）」の受講生を受け入れることを決定した。この事業は、子育て中の女性や非正規雇用者などの学び直し（リカレント教育）を推進するため、愛媛県が県内の短期大学に委託して、保育士の資格取得及び正社員就職を目標とする職業訓練を実施するもので、平成 30 年度は 1 名の受講生受け入れが決定している。

26. 短期大学部保育学科公開講座 「リカレントセミナー」を開催

幼稚園や保育所などに勤務している社会人を対象に、平成 29 年 8 月 18 日(金)、「第 18 回リカレントセミナー」が開催された。当日は本学保育学科教員が講師となり、午前の部では、「保育士・幼稚園教諭のための自己評価について」・「子どものけがや事故への予防と対応」が、午後の部では、「インクルーシブ保育の現状と課題」・「平面技法のおさらいと制作・展示・鑑賞までの流れ」が開講され、受講者たちは、新たな知識や技術の習得を目指して熱心に取り組んだ。

27.「あおぞらの下みんなで遊ぼう」を開催

平成 29 年 5 月 7 日（日）、幼児とその家族を対象に、「青空の下みんなであそぼう」（松山市社会福祉事業団主催）が北条キャンパスで開催された。当日は、多くの親子連れが来場し、大型遊具が設置された「ちびっこパーク」での外あそびや、「のびのび体操広場」での親子体操などを楽しんだ。なお、各イベントの運営を本学保育学科 2 年生が担当し、日頃の学習成果を披露する良い機会となった。

28. ボランティアウィークを開催

平成 29 年 7 月 10 日(月)～15 日(土)の 6 日間、「みんなが主役　－ボランティアで地域を元気に－」をテーマに、学生ボランティアセンター主催の「第 15 回ボランティアウィーク」が開催された。最終日の一般公開日には、北条地区在住の小・中・高校生による「北条再発見」をテーマとしたプレゼンテーションが行われたほか、恒例のステージサークル発表やフリーマーケット、パイプオルガン演奏会などで大いに盛り上がった。また、ボランティアセンターの学生により結成された地域まちづくり応援隊『カタリナ散歩道』の写真パネル展示も行われ、好評を得た。なお、ボランティアウィーク中の収益金や募金 114,260 円は、まごころ銀行（松山市社会福祉協議会）などを通じて全額寄付された。

29. ボランティアセンターが愛媛県総合防災訓練に参加

平成 29 年 11 月 5 日（日）、文化の森公園で開催された「平成 29 年度愛媛県総合防災訓練」にボランティアセンターの学生が参加した。学生たちは、「災害時におけるボランティア活動に関する協定」を締結している松山市社会福祉協議会が開設した福祉避難所と災害ボランティアセンターにおける「ボランティア受け入れ訓練」、「ボランティア活動リハーサル」、「福祉的なニーズを要する人の避難方法の確認」などを通して、有事の際のボランティアスタッフの動きや注意点を体験的に学んだ。

30. 平成 29 年度大学祭を開催

平成 29 年 11 月 24 日(金)～26 日(日)の 3 日間、「結　～新たなつながり～」をテーマに大学祭が開催された。初日は、聖カタリナホールで学内ミサが行われ、2 日目・3 日目には、ステージショー、スペシャルライブ、保育学科レクリエーションのほか、恒例のパイプオルガン演奏会が開催された。また、学内外から留学生グループを含む多数の模擬店の出店もあり、国際色豊かに様々な物品や食品等が販売され、地域住民や卒業生など延べ約 2,800 人の来場者があった。

31. 留学生と北条地区まちづくり協議会との交流

北条地区まちづくり協議会の提案により、平成 26 年度から本学の外国人留学生と北条地区住民との交流事業が行われている。本年度も留学生たちは、地元の伝統行事や日本文化体験、ボランティア活動などを通して地域住民との交流を深めながら充実した留学生活を送った。

32. 平成 30 年 4 月より硬式野球部を創部

本学では、平成 30 年 4 月より硬式野球部を創部することを決定し、監督に、元愛媛マンダリンパイレーツ監督で元プロ野球選手の沖泰司氏が就任することを 3 月 12 日(月)の記者会見で発表した。会見には、学長、学部長及び監督の 3 名が臨み、硬式野球部創部の経緯について、平成 28 年に硬式野球部を創部した聖カタリナ学園高等学校との連携を強化すること、県内高校球児の受け皿づくりの一環であること、地域活性化につなげること等を見据えたものであることを説明した。

【在学生の活躍】

33. ボランティアセンターの活躍

平成 29 年7月 28 日(金)、愛媛県生涯学習センターで開催された「青少年の非行・被害防止県民大会」において、学生ボランティアセンターが「平成 29 年度優良青少年団体」として知事表彰された。また、9 月 8 日(金)には松山市社会福祉協議会との継続的な連携や、まごころ銀行への協力が評価され、松山市社会福祉協議会会長より表彰された。

34. 四国活性化フォーラム2017で本学学生がプレゼンテーション

平成 29 年 11 月 26 日(日)、「四国活性化フォーラム 2017」が開催され、健康スポーツ学科 3 年生・藤原優歩さんが愛媛県チームの代表としてプレゼンテーションを行った。本年度の四国活性化プロジェクト(四国の 4 新聞社主催、四国 4 県共催)は、「スポーツイノベーション～繋がるチカラ、広がる未来～」をテーマに、各県が地域の産業や技術を生かした新たなスポーツ製品の開発に挑戦した。愛媛県チームは、「汗を楽しむ、気持ちのいい汗」をキーワードに、学生のアイデアと地元企業の技術力(えひめの力)とがコラボした Magical Sweat Wear を開発した。プレゼンテーションでは、汗の持つマイナスイメージを払拭するウェアの開発により、運動やスポーツをより楽しめる社会創りを提案した。

35. 留学生日本語スピーチコンテストで本学留学生が特別賞を受賞

平成 29 年 11 月 5 日(日)に、愛媛県留学生等交流推進会議主催の「第 14 回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2017」が開催され、県内の高校・短大・大学等に在籍する8カ国19名の留学生が出場し、日本語の表現力を競った。 本学からは、台湾からの留学生で人間社会学科 1 年・呉郁萱(ｳｰ・ﾕﾝｾﾝ)さんが出場し、「笑われる勇気」をテーマに、日頃から学んでいる日本語で身振り手振りを交えてスピーチを行い、特別賞を受賞した。

36. スポーツ部の活躍

○剣道部

平成 29 年 8 月 27 日(日)、岡山市総合文化体育館において、「第 44 回中四国女子学生剣道優勝大会」が開催され、本学剣道部女子が第 3 位に入賞し、11 月に愛知県春日井市で開催された「第 36 回全日本女子学生剣道優勝大会」に出場したが、惜しくも敗退した。

○軟式野球部

平成 29 年 8 月 21 日(月)、「第 40 回全日本大学軟式野球選手権大会」に四国地区代表として出場した本学軟式野球部は、初の全日本選手権大会出場を記念してリニューアルされたユニフォームで日本体育大学(東都代表)との初戦に臨んだが、初戦敗退となった。

37. 第 72 回国民体育大会・第 17 回全国障害者スポーツ大会へ参加

○笑顔をつなぐ　えひめ国体(平成 29 年 9 月 30 日～10 月 10 日)

競技には、保育学科 2 年生・八木夢依さんが、なぎなた成年女子試合に出場し準優勝を果たし、愛媛勢は競技別で初の総合優勝に輝いた。また、大会運営には競技役員やボランティアとして大学・短期大学部の学生延べ 80 名が参加した。

○笑顔をつなぐ　えひめ大会(平成 29 年 10 月 28 日～10 月 30 日)

大学・短期大学部の学生延べ 94 名が、競技役員やボランティア(授業の一環として参加の学生も含め)として大会運営に参加した。

【学生募集・広報活動】

38. 大学説明会を開催

平成 29 年 5 月 24 日(水)、松山市駅キャンパスを会場に「平成 29 年度大学説明会」(高校教員対象)を開催し、県内外から 42 校 49 名の参加を得た。当日は、担当教職員が、各学科の特色や就職状況、入試要領、奨学金等について説明を行ったほか、希望者を対象にキャンパス内の施設設備見学会を実施した。なお、学外での説明会は、5 月 25 日(木)から 5 月 30 日(火)にかけて、新居浜、宇和島、高知、高松の 4 会場において開催され、本学会場と合わせ全体で 68 校、75 名の参加を得た。

39. オープンキャンパスを開催

平成 29 年度オープンキャンパスが、北条キャンパスと松山市駅キャンパスの両キャンパスにおいて、6 月 25 日(日)、7 月 23 日(日)、8 月 11 日(金・祝)、9 月 24 日(日) の計 4 回開催された。参加した高校生たちは、全体説明の後、学科別説明会に参加したほか、模擬授業体験や学食体験(北条キャンパスのみ)などを通して、本学への理解を深めた。また、保護者対象の相談コーナーでは、保護者にとって関心の高い入試要項や奨学制度などについての個別相談が行われた。なお、大学祭が開催された 11 月 25 日(土)・26 日(日)には、高校生・保護者向け企画として、北条キャンパスでは入試相談コーナーが、松山市駅キャンパスでは看護学科見学会が実施され、多数の参加者があった。他にも、平成 30 年 3 月 18 日(日)には恒例の「春のオープンキャンパス」が松山市駅キャンパスにおいて開催され、高校生や保護者を対象に学科紹介や学科別体験コーナー、総合相談などが行われた。

40. インターネット出願システムの導入を決定

平成 29 年度第 10 回大学教授会(平成 29 年 12 月 13 日(水)開催)及び第 10 回短大教授会(平成 29 年 12 月 6 日(水)開催)において、平成 31 年度入試より「インターネット出願システム」を導入することを決定した。

【附置機関】

41. 研究所フォーラムを開催

○人間文化研究所

所員を含む本学教員の研究発表の機会として、平成 29 年 10 月 25 日(水)～平成 30 年 2 月 7 日(水)の間、全 5 回(10 名発表)のフォーラムが開催された。

○キリスト教研究所

平成 29 年 9 月 27 日(水)～平成 30 年 2 月 14 日(水)の間、「キリスト教におけるいのち　ー心の癒しー」をテーマとして全 5 回(11 名発表)のフォーラムが開催された。

42. アルベルト・カルペンティール展をミウラート・ヴィレッジで開催

平成 30 年 1 月 7 日(日)～2 月 4 日(日)の間、ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)で「神と芸術との対話 アルベルト・カルペンティール展」が開催された。期間中、本学所蔵のアルベルト・カルペンティール師の

版画作品や油彩、砥部焼、ステンドグラスが展示され、多くの来館者があった。なお、北条キャンパスにおいては、アルベルト・カルペンティール宗教画ギャラリーが常設され、一般公開されている。

43. 附属図書館のプロジェクトが地元紙に紹介

本学附属図書館において 8 年前から推進している「学生の自ら学ぶ力を育成するプロジェクト」が地元紙において紹介された。図書館員らによって進められている同プロジェクトは、学生の情報活用能力の育成・向上を目的としており、学生たちは、図書・雑誌・新聞・ウェブなどの様々な情報媒体について、学年特性に合わせて、その特徴や具体的な活用方法を学び、授業やゼミにおいて成果を上げている。

44. 市駅キャンパスに附属図書館（分館）がオープン

平成 29 年 4 月より、松山市駅キャンパスの講義棟 1 階に医学・看護学の専門図書や学術雑誌を中心とした附属図書館（分館）が開設され、本学学生及び教職員の知の拠点となっているほか、北条キャンパス附属図書館（本館）と同様、一般開放されている。

【国際交流】

45. 留学生が国際親善交流会に参加

平成 29 年 5 月 20 日（土）、韓国の留学生 3 名が国際ソロプチミスト松山から招待を受け、愛媛大学や松山大学の留学生と共に、松山市内のホテルで開催された「第 38 回国際親善交流会」に参加した。当日は、琴演奏などの日本の伝統文化を体験したほか、手話を交えた合唱などに参加し、親睦を図った。

46. 国際姉妹校(台湾)を表敬訪問

平成 29 年 6 月 1 日（木）～4 日（日）の 4 日間、学長、副学長ら学内関係者 3 名が国際姉妹校である静修女子高級中学(台湾)を表敬訪問し交流を深めたほか、同校からの留学生受け入れについて情報交換を行った。

47. 海外研修を実施

平成 29 年 8 月 26 日(土)～9 月 8 日(金)の間、人間健康福祉学部の学生 5 名がスペインでの研修に参加し、国際提携校であるレオン大学において 5 日間の国際福祉研修プログラムに参加したほか、世界遺産見学やサンティアゴでの徒歩巡礼を体験するなどして、充実した 2 週間を過ごした。

聖カタリナ大学看護学科（平成 29 年 4 月開設）が所在する「松山市駅キャンパス」の全景(松山市永代町)

■高等学校関連

《聖カタリナ学園高等学校》

【教育】

1．男女共学・第 2 期生が入学

平成 29 年 4 月 10 日(月)、平成 29 年度入学式が 448 名の新入生を迎え挙行された。校長は式辞の中で、男子生徒が 2 学年揃った本年度を「ホップ・ステップ・ジャンプ」のステップの年に当たるとして、『学校としてチャレンジしている三段跳びは、より遠くの着地点を求めています。完成年度のジャンプがうまくいくかどうか、それは皆さんの活躍にかかっているのです。』と期待を述べ、在校生・教職員とともに共学 2 期生を歓迎した。

2．入試報告会＆ICT授業見学会を開催

平成 29 年 5 月 23 日(火)に開催された「入試報告会＆ICT 授業見学会」には、県内中学校の校長や学年主任等、35 校 37 名の参加があった。当日は、前年度の入試状況報告会の後、電子黒板やタブレット端末を駆使したICT教育の授業見学会を行った。

3．聖カタリナ･セミナーハウスを会場に学習合宿を実施

○普通科新入生　春期学習合宿

平成 29 年 4 月 14 日(金)･15 日(土)、普通科特別進学コース 1 年生を対象に学習合宿が実施された。この合宿は、予習→授業→復習の学習習慣サイクルを身に付けるためのトレーニングの場として毎年行われており、生徒たちは各教科の授業に加えて、校長講話や進路ガイダンス、平成 28 年度より導入されたICT授業のガイダンス、ノートコンテストなど、充実したメニューに取り組んだ。

○普通科 1･2 年生　夏期学習合宿

平成 29 年 7 月 24 日(月)～27 日(木)の日程で、大学進学を目指す普通科(スポーツ進学コースを除く)1･2 年生 83 名を対象に、夏期学習合宿が実施された。3 泊 4 日の合宿中、生徒たちは1コマ 90 分の授業を 21 コマ、合計で 30 時間を越える授業を受講し、学力向上とともに、やり遂げることの大切さを学んだ。

4．平成 29 年度看護師国家試験において受験者全員合格

平成 30 年 2 月 18 日(日)に実施された平成 29 年度(第 107 回)看護師国家試験において、看護専攻科生 51 名が受験し、全員合格を果たした。本校は、1 名が不合格となった平成 25 年度を除き、平成 22 年度以降連続して受験者全員合格を果たしており、看護師養成において全国トップレベルの実績をあげている。なお、平成 29 年度の合格率(全国)は 91.0%(うち新卒者 96.3%)だった。

5．全国私学教育研究集会において本校が事例・研究発表

平成 29 年 10 月 19 日(木)･20 日(金)の 2 日間に亘り開催された「平成 29 年度全国私学教育研究集会愛媛大会」に、本校から 11 名の教員が参加した。2 日目の教育課程部会において平原澄夫教頭が、「教育環境の変化と対応　～校内 ICT 化へ向けた実践報告～」と題した事例発表を、また、特色教育部会において横山博文教頭が、「高大連携教育の具体的な取り組み」について研究発表をそれぞれ行った。同大会には全国から 542 名の教職員が参加し、「時代を先取りする私学」を研究目標に、初日は開会式及び全体会が、2 日目は 6 つの部会に分かれて、講演、実践・事例・研究発表、パネルディスカッション等が行われた。

6．教員研修・研究授業を実施

○平成 29 年 5 月 25 日(木)～6 月 9 日(金)を教員研修期間として、教員相互で授業見学を行った後、評価表を提出するなどして、教務力の向上及び自己啓発に集中的に取り組んだ。

○平成 28 年度から導入された ICT 教育のさらなる充実を図るため、平成 29 年 6 月 16 日(金)及び 7 月 11 日(火)の 2 回、「ICT 活用授業・アクティブラーニング校内研修会」を開催した。

【生徒支援】

7. 総合学科 1 年生の大学訪問

平成 29 年 6 月 13 日(火)、総合学科1年生が「産業社会と人間」の授業の一環として、同じ学園である聖カタリナ大学・短期大学部を訪問し、保育や健康福祉、心理コミュニケーションの系列研究を行った。当日は、各学科説明のほか、ミニミニ模擬授業、在学生インタビュー、卒業後の進路についての説明などが行われ、参加した生徒たちにとって学問や職業についての関心を高める機会となった。

8.「卒業生を囲む懇談会」を開催

平成 29 年 6 月 14 日(水)、就職を希望する 3 年生約 70 名を対象に、「卒業生を囲む懇談会」が行われ、生徒たちは、職業人として活躍する 4 人の先輩の体験談やアドバイスに熱心に耳を傾けた。

9. 大学体験ツアー2017 を開催

平成 29 年 8 月 18 日(金)、PTAと教育後援会の協力により「大学体験ツアー2017」が開催され、本校生徒約 50 名が広島大学(広島県東広島市)を訪問した。当日は、全国から集まった大勢の高校生と大学の模擬授業を受講したり、学部説明に耳を傾けたりと、大学のアカデミックな雰囲気を肌で感じる貴重な一日となった。

10. カタリナ進路研究セミナー2017を開催

平成 29 年 9 月 28 日(木)、普通科・総合学科1年生を対象に「カタリナ進路研究セミナー」が開催された。文学や教育学のほか、建築や美容、ファッション等、様々な模擬授業や体験授業が行われ、参加した生徒たちにとって、将来の夢や進路についてより深く考える機会となった。

【高大連携】

11. 高大連携活動を展開 （※詳細は［大学・短期大学部］の部に掲載。）

・平成 29 年 8 月 12 日(土)、松山まつり「野球拳おどり ～団体連の部～」に「聖カタリナ学園連」として出場し、優勝した。

・平成 29 年 8 月 11 日(金)～13 日(日)の 3 日間、松山まつり「まつこいパーク」において、聖カタリナ大学・短期大学部と協力し、チャリティゲーム大会の学園ブースを出店した。

・平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)、「カタリナフェスティバル in エミフル MASAKI」を開催し、学園紹介の各種イベントを実施した。

【社会貢献・地域連携】

12. 広島平和体験学習

平成 29 年 8 月 5 日(土)・6 日(日)の 2 日間、広島平和体験学習が実施され、生徒 11 名及び教員 4 名が参加した。1 日目は、看護科 1 年生が折った千羽鶴を捧げたり、平和行進に参加したりしたほか、2 日目の平和記念式典では、全国から集まった参加者とともに平和への祈願を行った。

13. ボランティア活動を展開

○平成 29 年 5 月 29 日(月)、松山市民会館大ホールにおいて「聖母を讃える集い」が催され、祭儀・共同祈願の後、長崎南山中学・高等学校校長の西 経一神父による「愛のうちにともに育つ」と題した講演が行われた。午後からは、松山市内の高齢者施設を訪問したほか、近隣公園の清掃活動などのボランティア活動に取り組んだ。

○平成 29 年 12 月 14 日(木)、松山市民会館においてクリスマス祝会が行われ、ホアン・マヌエル神父によるミサの後、弁論大会最優秀者や吹奏楽部・新体操部などの発表会が行われた。また、12 月 7 日(木)・8 日(金)の授業終了後、恒例となったクリスマス街頭募金活動が、松山市駅前周辺において生徒延べ 90 名が参加して行われた。2 日間で集められた募金 145,510 円はアフリカ干ばつ緊急募金などに送金された。

14. 学園祭を開催

平成 29 年 11 月 3 日(金・祝)、「第 50 回カタリナ学園祭」が、“一蓮托生～花咲け カタリナ日和～”をテーマに開催された。共学校として 2 年目となった本年度は、全校生徒で取り組んだ壁画(写真)が雰囲気を盛り上げる中、白ゆり館での開会式の後、各部活動の発表会や模擬店、チャリティバザー等が校内各所で行われ、卒業生や学校関係者、地域住民など多くの来場者があった。

【在校生の活躍】

15. 運動部

○愛媛県高校総体(平成 29 年 6 月 2 日～6 月 5 日)

10 競技に 131 名が参加し、バスケットボール部(16 年連続)・器械体操部(6 年ぶり・16 度目)・陸上競技部・ソフトボール部が優勝、新体操部・バレーボール部が準優勝の成績をあげた。

○四国高校選手権大会(平成 29 年 6 月 17 日～6 月 19 日)

バスケットボール部(16 年連続 19 度目)・ソフトボール部(13 年ぶり 15 度目)が団体優勝を果たしたほか、陸上 7 種競技において、本校生徒が四国高校新記録で優勝し「陸の女王」の称号を手にした。

○全国高等学校総合体育大会　－南東北総体－ (平成 29 年 7 月 28 日～8 月 20 日)

4 競技に 53 名が出場し、上位入賞はならなかったものの、堂々とした戦いぶりを見せた。

○第 99 回全国高等学校野球選手権・愛媛県大会(平成 29 年 7 月 13 日～7 月 28 日)

創部 2 年目、2 回目の出場となった本校硬式野球部は、初戦は強豪校を相手に延長戦を制したが、2 回戦で敗れ、16 強入りは果たせなかった。

○第 72 回国民体育大会－2017 愛顔つなぐ えひめ国体－ (平成 29 年 9 月 30 日～10 月 10 日)

過去最多となる 8 競技に 51 名が出場し、本校 3 年生・泉宗心音さんがボウリング少年女子個人 1 位に輝き、団体でも 2 位の好成績を収めた。

○第 36 回愛媛県高等学校弓道選抜大会(平成 29 年 11 月 5 日)

本校の渡部冬萌さんが個人戦において優勝し、全国大会への出場を決めた。

○バスケットボール四国高校新人大会 (平成 30 年 2 月 10 日・11 日)

本校バスケットボール部は予選リーグを1位通過し、決勝戦で香川の強豪校を 81-43 のほぼダブルスコアで制し、12 年連続 20 回目の優勝を果たした。

○2017 年度愛媛県体育協会賞を受賞

公益財団法人愛媛県体育協会(平成 30 年 4 月より公益財団法人愛媛県スポーツ協会へ改称)の「2017 年度表彰式」が平成 30 年 2 月 8 日(木)に行われ、フィリピンで開催された「第 19 回アジアユースボウリング選手権大会」において、女子シングルスで銅メダル、女子個人総合で金メダルを獲得した本校 3 年生・泉宗心音さんが最優秀選手賞に選ばれたほか、バスケットボール部が連続優勝部門賞(団体)を受賞した。

16. 文化部

○第 20 回俳句甲子園松山地区予選(平成 29 年 6 月 18 日)

俳句甲子園松山地区予選に本校文芸部 3 年生 5 名、2 年生 2 名が出場し、予選突破はならなかったものの、個人では前回に引き続いての受賞(子規・漱石生誕 150 年記念賞)となった。

○第 64 回全国高等学校珠算・電卓＆ワープロ競技大会愛媛県予選(平成 29 年 6 月 4 日)

・電卓の部:事務機械部が団体優勝、個人競技で 1 位、2 位に輝いたほか、個人・種目別競技の伝票算において 1 位、2 位の好成績を収めた。

・ワープロの部:パソコン部が団体 3 位に入賞したほか、個人競技において技能賞を獲得した。

【生徒募集・広報活動】

17. 課外授業・ICT授業体験会を開催

平成 29 年 5 月 27 日(土)、6 月 17 日(土)、9 月 30 日(土)、10 月 14 日(土)の計 4 回、中学生(保護者や

教員の参加も可)を対象に、普通科・特別進学コースの課外授業や平成 28 年度より導入したICT教育の体験会を開催した。当日は実際にタブレット端末を操作したり、授業や Web テストを受けたりして、ICT教育の先進校である本校への理解を深めてもらった。

18. 学校・入試説明会を開催

○平成 29 年 6 月 10 日(土)、白ゆり館において中学生・保護者を対象とする学校説明会が開催され、約 500 名の参加を得た。当日は、全体会、各科・コースの紹介、部活動のデモンストレーションなどが行われた。

○平成 29 年 10 月 21 日(土)に開催された保護者対象学校説明会には 78 名の参加があり、本校担当者の説明に熱心に耳を傾けた。

○平成 29 年 11 月 11 日(土)、生徒・保護者対象の学校入試説明会を開催し、約 200 名の参加があった。当日は学校紹介の後、奨学制度や入試問題の傾向と対策について担当教員より説明が行われた。

19. 学校体験・見学会を開催

来年受験を迎える中学生を対象に「学校体験・見学会」が平成 29 年 8 月 1 日(火)、8 月 2 日(水)、8 月 22 日(火)の計 3 回開催され、延べ 1,082 名の参加を得た。当日は、白ゆり館にて全体会が催され、校長の挨拶や奨学制度の説明等が行われた後、生徒たちは学科別に設けられた授業体験コーナーにそれぞれの興味や希望に応じて参加した。なお、8 月 22 日(火)の会では、運動部の紹介も行われた。

20. 地域別学校説明会を開催

県内中学校の教員を対象とした「地域別学校説明会」が平成 29 年 9 月 26 日(火)から 3 日間、宇和島、西条、松山の各会場において開催され、計 83 校・113 名の参加を得た。

【国際交流・海外留学】

21. ニュージーランドの姉妹校へ長期留学

○総合学科 3 年生 1 名が平成 29 年 4 月から 1 年間、ニュージーランドにあるサザンクロス語学学院へ長期留学し、学院の所在するクライストチャーチ市においてホームステイ生活を送りながら語学教育を受け、無事帰国した。

○普通科 1 年生 1 名が平成 30 年 1 月から 1 年間、ニュージーランドの姉妹校セント・メアリーズ校で語学習得や異文化体験に取り組んでいる。

22. シアトルへ短期留学

シアトル短期留学が平成 30 年 3 月 10 日(土)から 17 日間の日程で実施され、13 名の生徒が参加した。滞在期間中、生徒たちはホストファミリーと共に生活しながらホーリー・ネームズ・アカデミー高校での英語講座や芸術・体育などを受講したほか校外研修などを楽しみ、短期ながら充実した留学生活を終えて、3 月 26 日(月)、無事帰国した。

23. 長期＆短期留学説明会を開催

ニュージーランド及びアメリカ・シアトルへの長期留学説明会が平成 29 年 6 月 8 日(木)に、アメリカ・シアトルへの短期留学説明会が 6 月 14 日(水)に、それぞれ開催された。説明会では、留学経験を持つ生徒たちがパワーポイントを用いながら留学体験について報告し、異文化体験の意義を後輩たちに伝えた。

24. 平成 29 年度ニュージーランド長期留学帰国報告会を開催

平成 29 年 1 月から 12 月までの 1 年間、ニュージーランドの姉妹校セント・メアリーズ校に長期留学をしていた普通科 2 年生 2 名による帰国報告会が平成 30 年 1 月 17 日(水)に行われ、ホストファミリーや学校生活の様子を紹介するスライドを上映しながら、異文化体験の楽しさや自らの成長について語った。

25. ニュージーランドの姉妹校から研修生来校

平成 29 年 10 月 2 日(月)、姉妹校であるセント・メアリーズ校から 25 名の生徒が来校し、歓迎会を催した。

滞在中、研修生たちは、本校生徒と共に授業を受けたり、校外研修で松山市の観光地を訪ねたり、日本語や日本文化の体験学習に臨んだ。また、同校からは、平成 29 年 11 月 20 日(月)～平成 30 年 2 月 5 日(月)までの約 3 ヶ月間、留学生 1 名がホームステイをしながら本校において様々な授業や学校行事に参加し、充実した留学生活を送り帰国した。

《京都聖カタリナ高等学校》

【教育】

1. 普通科 5 系の「マイドリーム講座」が順次開講

普通科は、平成 28 年度より「3Dマイドリーム教育」を教育コンセプトに掲げ、学びの「3Dステップ」を取り入れた本校独自の教育内容にリニューアルされた。生徒たちは、『子ども保育』『健康スポーツ』『調理・パティシエ』『どうぶつ・医療』『仕事プロデュース』の 5 系について、本年度も専門講師による実習や実技中心の「マイドリーム講座」を受講しながら、学年進行に応じて系を絞り込んでいき、その過程において、将来の進路について自ら考え、選択する力を養った(写真は『調理・パティシエ』系の実習風景)。

2. 「カタリナ講座」を開講

4 月入学生から学年進行にてカタリナ講座(学校設定科目)を開講した。Benesse の基礎学力学び直しトレーニング・プログラム「マナトレ」を普通科は 2 単位、看護科は 1 単位として、1 学期は数学、2 学期は英語、3 学期は国語をそれぞれ実施し、基礎学力の向上を図った。

3. 国家試験を見据えた看護科教育の充実

平成 28 年度より 2 クラス制となった看護科は、国家試験合格 100%を目指し、学年に応じた学修支援体制を整え国家試験対策の充実を図ったが、平成 29 年度(第 107 回)看護師国家試験の合格率は 83.9%(31 名受験、26 名合格)で、全国平均 91.0%(新卒者 96.3%)を下回る結果となった。今後、指導体制のさらなる強化を含め改善策を実施し、合格率向上を目指すこととしている。

4. 普通科フードカルチャーコース 3 年生が卒業成果発表会を開催

平成 30 年 2 月 6 日(火)、普通科・フードカルチャーコースの 3 年生が、卒業成果発表会として、「高校生カフェ」をオープンした。当日は、保護者や教職員、外部講師らを招いて、『地産地消』をコンセプトとするメニューでもてなした。

5. 普通科 2 年生が災害ボランティア検定にチャレンジ

平成 30 年 3 月 12 日(月)、普通科・健康スポーツ系の 2 年生 15 名が、災害ボランティアに関する学びの成果を確認するために、災害ボランティア検定のネット受検にチャレンジした。受検した生徒たちは、知識習得だけでなく、日ごろからの心構えや近隣住民とのつながりの大切さを改めて認識することができた。

6. 教職員研修に注力

○平成 29 年 7 月 26 日(水)、障がいを持つ生徒支援に関する教員研修を実施し、発達障がいに対する合理的配慮や個別教育支援計画などについての理解を深めた。

○平成 30 年 3 月 13 日(火)、特別支援教育に関する勉強会を実施し、本年度を振り返ると共に、スクールカウンセラー、養護教員、学年主任、クラス担任(普通科)でケース会議を行い、新年度に向けての生徒の把握及び生活・学習支援について情報を共有した。

7. 生徒・教職員対象にカトリック講話

平成 30 年 1 月 22 日(月)、カトリック香里教会の主任司祭である松村繁彦神父を招いて、「イエス・キリストのメッセージ」をテーマに、生徒・教職員対象のカトリック講話を行った。

8. 慰霊祭ミサに参加

平成 29 年 11 月 10 日（金）、小立花　忠神父を招いて慰霊祭ミサを行った。ミサに先立ち、神父による「歌は祈り、歌は喜び」と題した講演が行われ、歌声を織り交ぜた迫力ある講演に参加した生徒・教職員は魅了された。

【生徒支援】

9. 新入生フレッシュセミナーを開催

平成 29 年 4 月 13 日(木)～14 日(金)、外部研修施設（あうる京北）において本年度入学生 83 名を対象にした「フレッシュセミナー」が開催され、南丹警察署による非行防止教室や校長講話、教務部・生徒指導部・進路部等による研修、レクレーションなどが行われた。1 泊 2 日の研修を通して、本校生徒としての自覚と連帯感が生まれ、学校生活の良いスタートを切る機会となった。

10. 聖カタリナ大学・短期大学部学校説明会を開催

平成 29 年 9 月 8 日(金)、普通科 1 年生を対象に、姉妹校である聖カタリナ大学及び同短期大学部の学校説明会が開催された。大学教員から学科紹介や入試概要の説明が行われたほか、本校卒業生からのビデオメッセージが紹介され、生徒たちは姉妹校への理解を深めた。

11. キャンパスツアーを実施

平成 30 年 3 月 14 日(水)、普通科 1・2 年生を対象にキャンパスツアーを実施した。当日は、京都学園大学と京都ノートルダム女子大学の 2 班に分かれて、それぞれの特色ある教育環境を見学した。

12. 卒業生による「卒業感謝の集い」を開催

平成 30 年 2 月 20 日(火)、卒業を間近に控えた生徒たちが、自らの学校生活を振り返ると共に、友人や教員に感謝する「卒業感謝の集い」を行った。当日は、チェ・ソンファン神父による按手が行われ、参加した生徒たちは厳かな雰囲気の中、有意義な時間を共有した。

13. 進路指導・キャリア支援の充実

○平成 29 年 6 月 26 日(月)、普通科 3 年生を対象に進路説明会が開催された。進学を希望する生徒たちは志望大学・短大・専門学校の教員との懇談会に、就職希望の生徒たちは面接時のマナー研修に参加し、ロールプレイを通し面接練習を重ね、進路実現への意識を高めた。

○平成 29 年 11 月 13 日(月)、進路指導部による普通科 1 年生対象「小論文ガイダンス」を実施した。当日は外部より専門家を招き、作文と小論文の違いを導入口に、レポートやエントリーシートの作成に役立つ入門レベルから学び、実践編として翌週 20 日(月)には、小論文テストにチャレンジした。

○平成 29 年 11 月 20 日(月)、普通科 3 年生を対象に、外部講師としてファッションアドバイザーを招いて「着こなし講座」を実施した。当日はスーツの選び方のほか社会人としてのマナーについても学んだ。

14. 看護科・専攻科生対象　就職説明会を開催

平成 29 年 7 月 25 日(火)、看護科 3 年生及び専攻科生を対象に病院就職説明会を開催した。当日は、実習先となっている病院等医療機関 15 施設の関係者が来校し、施設の概要や新人教育プログラム、福利厚生などについて説明が行われたほか、看護師として活躍している本校卒業生が自らの体験について講話し、生徒たちは熱心に聞き入っていた。また、説明会終了後には、個別相談ができる相談ブースが設けられ、多くの生徒たちが各施設の職場環境や奨学金制度など詳細な話を聞き、就職に対する意識を高めることができた。

15. 女子生徒対象「痴漢被害防止教室」を開催

平成 29 年 5 月 26 日(金)、南丹警察署から講師を招き、女子生徒を対象に、「痴漢被害防止教室」を開催した。当日は、被害に遭わないための注意点について、路上編・痴漢盗撮編・JK 問題編の 3 部構成で講演があったほか、護身術について、実演を交えての講習が行われた。

16. 薬物乱用防止教室を開催

平成 29 年 7 月 12 日（水）～14 日（金）の 3 日間、学年ごとに「薬物乱用防止教室」を開催した。1 年生は薬物の基礎知識について、2 年生は薬物依存の恐ろしさについて、3 年生は若者の薬物事情について、それぞれ専門講師を招いて、詳しく学んだ。

17. 人権講演会を開催

平成 29 年 11 月 28 日（火）、上方落語家の林家染太氏を招いて「人権講演会」を開催した。中学時代にいじめに遭った自らの経験を基に、「幸せになるための 2 つの方法」として生徒たちに心がけてほしいことを分かりやすく語った。講演の後、落語が披露され、生徒たちはプロの話芸を楽しんだ。

【社会貢献・地域連携】

18. ボランティア活動を実施

○平成 29 年 5 月 16 日（火）、本校ホールにおいて「聖母月のつどい」が開催され、生徒代表者によるマリア像への献花や各クラス代表者によるスピーチが行われた(写真)。午後からは各グループに分かれて、近隣駅周辺の清掃活動や高齢者施設等を訪問してレクレーション交流を行ったほか、募金活動にも取り組み、当日集まった募金 128,482 円はカリタスジャパンを通じて寄付された。

○平成 29 年 12 月 14 日（木）、約 300 名の本校生徒がカトリック丹波教会園部聖堂に集い、クリスマスミサが行われた。ミサ終了後、クリスマスボランティア活動として東日本大震災の被災者救援のための募金活動を行い、集まった募金 114,600 円はカリタスジャパンを通して被災者へ義援金として送られた。

19. 学園祭を開催

平成 29 年 9 月 15 日(金)～16 日(土) の 2 日間に亘り、学園祭が催された。1 日目は本校体育館において各クラスやコース、部活動等による舞台発表が、2 日目はクラス展示、模擬店、クラブ活動発表などが行われ、保護者や生徒の友人など多数の来場者があり、大いに盛り上がった。

20. 南丹市情報センター25 周年感謝祭に参加

平成 29 年 11 月 19 日(日)、公益財団法人南丹市情報センター25 周年ありがとう感謝祭の記念イベントに本校看護科専攻科 2 年生が参加し、「測ってみよう！聴いてみよう！看護体験」と題して、イベント来場者の血圧測定や体重・身長測定を行ったほか、聴診器を用いて自分の心音や血圧測定時の血管の音を聴いてもらうなどの企画を提供して、広い年齢層に喜ばれた。

21. 地域ふれあいサイエンスフェスタに参加

平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)、ガレリアかめおかで開催された「地域ふれあいサイエンスフェスタ 2017」に本校看護科の生徒が中心となってブースを開設した。聴診器を使ったゲームや心音を聴く体験コーナーなど、本校ブースには多数の親子が来場し、身近な科学体験を楽しんだ。このイベントは、亀岡市教育研究所が理科教育に関わる支援事業の一環として毎年開催しており、科学実験やものづくりなどの企画運営を担うサイエンスボランティアの募集に今回応募し、参加したもので、生徒にとっても日ごろの学びを地域ボランティアに生かす有意義な機会となった。

【在校生の活躍】

22. 京都府私立高等学校バレーボール選手権大会でベスト4入賞

平成 29 年 8 月 2 日（水）・3 日(木)、島津アリーナ京都（京都府立体育館）において開催された「京都府私立高等学校バレーボール選手権大会」において、本校女子バレーボール部がベスト 4 に入賞し、12 月の近畿大会への出場を果たした。

23.「森の京都」観光プランコンテストで優秀賞

普通科・仕事プロデュース系2年生が、森の京都DMO設立記念「森の京都」観光プランコンテストにおける第1次審査(書類選考)を通過し、平成29年10月28日(土)に行われた第2次審査の本選に出場した。当日のプレゼンテーション及び提案書類による総合評価の結果、上位3賞は逃したものの、提案したプラン『インスタ映えする森の京都旅』が優秀賞を受賞した。

【生徒募集・広報活動】

24. オープンキャンパスを開催

平成29年7月29日(土)及び11月4日(土)、平成30年度入学予定者を対象にオープンキャンパスを開催し、中学生・保護者等合わせて延べ514名の参加があった。当日は全体会及び学科別授業体験が実施され、前年度より5系列編成となった普通科は、「マイドリーム講座」を受講した1年生がその内容について、看護科は「ワンストップマイドリーム教育」を学科の特長としてプレゼンテーションを行った。また、8月27日(日)には「部活オープンデー」を開催し、多数の中学生が、吹奏楽部、女子サッカー部、女子バレーボール部、ソフトボール部、ダンス部などの部活動体験に参加した。

25. 亀岡市・南丹市立各中学校にて中学3年生・保護者対象学校説明会を実施

亀岡市及び南丹市内にある中学校を訪問し、本校のカトリック校としての特色や各学科の特徴を説明し、受験生、保護者に進路選択の情報提供を行った。

26. 私学フェアに参加

平成29年6月18日(日)、みやこめっせ(京都市勧業館)において、京都府内の私立中学校・高等学校の魅力や特色を生徒・保護者に分かりやすく伝えるイベントとして恒例になっている“私学フェアKYOTO”(京都府私立中学高等学校連合会主催)が開催され、府内私立中学・高等学校40校のうち35校が参加した。当日は、各学校代表生徒による学校一言アピールや代表校によるパフォーマンスが披露されたほか在校生による質問コーナーや教員による学校別相談コーナーが設けられ、多数の来場者で盛況となった。本校の相談コーナーには前年度より多い相談があり、普通科・看護科合わせて79名の中学生が来訪した。

27. 中学校教員対象入試説明会に参加

平成29年8月18日(金)、京都府私立中学・高等学校連合会主催の中学校教員対象入試説明会に参加し、各科の特色・魅力及び平成30年度入試に関する説明を行った。

28. 私立中学・高校展に参加

平成29年9月2日(土)・3日(日)の2日間、みやこめっせ(京都市勧業館)において、京都府私立中学高等学校連合会・京都新聞主催による「第31回京都私立中学・高校展」が開催され、学校相談コーナーやパンフレットコーナーに多数の来場者があった。本校のブースにも普通科・看護科合わせて昨年度の倍である63名の相談があり、担当教員が入試や学校生活に関する相談に応じた。また、3日(日)には、「第9回フォーラム 挑戦する私学 ー期待されるこれからの私学教育ー」が開催され、フルート・オカリナ演奏家で講演家のさくらいりょうこ氏による教育講演会が開催された。

29. 看護科が中学校出前授業を実施

平成29年7月11日(火)及び8月31日(木)、看護科教員による中学校出前授業を実施し、看護実習、説明を通じて看護科の魅力を伝え、認知度の向上を図った。

30. 平成30年度塾対象入試説明会を実施

平成29年10月19日(木)、キャンパスプラザ京都において、塾対象入試説明会が実施され、19塾23名の参加があった。当日は、校長挨拶、各科の授業内容及び進路、入学試験、学費等の説明のほか、本校看護科卒業生で現役看護師2名による看護現場の体験報告があり、その後質疑応答及び個別相談が行われた。

31. 生徒・保護者対象入試説明会を実施

平成 29 年 10 月 7 日(土)、11 月 18 日(土)、12 月 9 日(土)の計 3 回、本校において、中学生及び保護者を対象に入試説明会を実施し、参加者数は生徒・保護者合わせて延べ 200 名となった。また、10 月 14 日(土)、メルパルク京都において入試説明会を実施し、生徒・保護者合わせて 20 名の参加があった。

《光ヶ丘女子高等学校》

【教育】

1. 国際教養科「合宿学習」を実施

平成 29 年 8 月 1 日(火)～3 日(木)の 3 日間、国際教養科 1 年生の希望者を対象に合宿学習が実施され、参加した生徒 84 名は、一学期の復習やグループワーク、進路学習(入試情報)などに取り組んだ。

2. Women's Empowerment Program を実施

平成 29 年 8 月 8 日(火)～11 日(金)の間、国際教養科において Women's Empowerment Program が実施され、生徒 29 名が参加した。前年度から始まったこのプログラムは、米国などからの留学生と共に英語を使ってディスカッションやプレゼンテーションを行うもので、4 日間の集中プログラムを通して、英語力はもとより、英語を使って自分の意見を主張する力や異なる価値観に対する理解力を養うことを目標としている。

3. 普通科1年生保護者対象にコースガイダンスを実施

普通科では 2 年次より希望進路に応じて 3 クラス(文系クラス・理系クラス・福祉クラス)を選択することから、平成 29 年 6 月 10 日(土)に 1 年生保護者対象の「コースガイダンス」を開催した。当日は、保護者 221 名が参加し、本校の進路指導方針やスケジュール等についての理解を深めた。

4. 教員研修を実施

○平成 29 年 4 月 27 日(木)、教職員を対象に発達障がいの生徒の支援に関する研修を実施した。カウンセラーから具体的な事例が紹介され、特別支援教育について考える有意義な場となった。

○平成 29 年 5 月 11 日(木)、現職教育の一環として、教務マニュアルにおけるテスト監督の方法についての実務研修を行った。

○平成 29 年 6 月 8 日(木)、名古屋教区司祭　太田実氏を講師に、「日本におけるキリスト教の流れについて」というテーマで現職教育講演会を開催し、カトリック校のミッションや宗教教育について学び直しの機会とした。

○平成 29 年 6 月 26 日(月)、株式会社第一学習社より講師を招き、小論文指導講座を教員向けに開催した。

○平成 29 年 8 月 22 日(火)、中部地区カトリック学校連盟教育研修会が開催された。本校からは校長、教頭を含む教員 5 名が参加し、「人間の尊厳　ーいのちの重さー」をテーマとした基調講演などを聴講した。

○平成 30 年 1 月 19 日(金)～30 日(火)を公開授業週間として 5 教科の公開授業を実施し、授業力の向上を図った。また、期間中に実施された保護者対象授業参観には、59 名の保護者の参加があった。

【生徒支援】

5. 安全講習会を開催

平成 29 年 4 月 7 日(金)、1 年生を対象に「自転車安全講習会」及び「護身術講座」が開催された。通学や生活の環境が大きく変化した新入生たちは、岡崎警察署員の指導のもと、実演を交えた安全講習に熱心に取り組んだ。

6. 中学校連絡会を開催

平成 29 年 7 月 7 日(金)、岡崎市・安城市・幸田地区の中学校教員を招き、前年度の進路実績及び本年

度の現況報告、校内施設見学、出身中学校別に生徒との懇談会等を行い、参加者には、自校出身者の動静及び本校への理解を深めていただいた。

【社会貢献・地域連携】

7. 聖母をたたえる集いを開催

平成 29 年 5 月 31 日(水)、全校生徒が集会して「聖母をたたえる集い」を行い、午後からは学年ごとに分かれて、1 年生は福祉実践教室に参加し、車椅子や手話、点字などを体験した。また、2 年生は学校周辺の清掃、3 年生は施設清掃訪問など、恒例となっている奉仕活動を行った。

8. 奉仕活動を実施

平成 29 年 12 月 15 日(金)、全校一斉に奉仕活動を実施した。生徒たちは学年別に、学校周辺の清掃活動やクリスマスカード作り、病院慰問などに取り組み、本校の校訓である「奉仕」の精神を実践する機会とした。

9. エンジェル部がフィリピンでボランティア研修

本校エンジェル部の生徒たちは、平成 30 年 3 月 19 日(月)～29 日(木)の間、フィリピンでのボランティア研修に参加した。現地では、姉妹校であるドミニカンスクールの卒業式や卒業ミサへの参加や、「マザーテレサの家」でのボランティア活動、スラム地区住民との交流など、充実した支援活動を展開した。

10. 学校行事に多数の来場者

○平成 29 年 9 月 8 日(金)・9 日(土)に開催された「第 50 回文化祭」において、各部活動による発表会が行われ、1,400 名を超える来場者があった。

○平成 29 年 9 月 21 日(木)、「第 55 回体育大会」が行われた。当日は天候にも恵まれ、生徒保護者や PTA 役員のほか岡崎市内の中学校長らの参加もあり、大いに盛り上がった。

○平成 29 年 12 月 16 日(土)・17 日(日)、岡崎市民会館において「クリスマスページェント」が公演された。各回とも、本校関係者のほか西三河地区の中学校からも校長や教職員らが多数来場し、全 3 公演で約 3,600 名の観客を動員した。

○平成 29 年 12 月 20 日(水)、本校正門前駐車場に特設会場が設けられ、吹奏楽部・合唱部を中心とするクリスマスキャロルが披露された。当日は、会場に飾られたイルミネーションのもと、近隣住民約 250 名も来校し、生徒と共にクリスマスを祝った。

【在校生の活躍】

11. 運動部

○ダンス部

・「第 9 回 NFCC・全国ハイスクールダンスコンペティション」で本校Aチームが優勝した。

・「第 30 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル」において 3 位に入賞し、日本女子体育連盟会長賞を受賞した。

・平成 29 年 9 月 18 日(月)、刈谷市総合文化センターで発表会を開催し、1,500 人の観客を集めた。

○陸上部

・「平成 29 年度全国高等学校総合体育大会」(南東北総体)の陸上競技(3,000m、800m、400m×4、競歩)に本校生徒が出場した。

・平成 29 年 11 月に開催された「平成 29 年度東海高等学校駅伝競走大会」において初優勝を飾った。

・「平成 29 年度愛知県高等学校駅伝競走大会」(全国大会県予選)において初優勝、さらに 12 月に開催された「第 29 回全国高等学校女子駅伝競走大会」で、初出場ながら 11 位に入賞し、本校の健闘ぶりはマスコミでも大きく取り上げられた。

○卓球部

・「平成 29 年度愛知県夏期卓球新人大会」の女子シングルスにおいて、本校生徒 2 名がブロック優勝を果たした。

・平成 30 年 3 月に福井県で開催された「第 45 回全国高等学校選抜卓球大会」の代表に本校生徒が選ばれ、出場した。

12. 文化部

○放送部

・「第 64 回 NHK 杯全国高校放送コンテスト・愛知県大会」のアナウンス部門において最優秀賞、朗読部門において優秀賞と優良賞を受賞、全国大会においては朗読部門で入賞を果たした。

・「第 30 回愛知県高等学校総合文化祭放送専門部県大会」に出場し、アナウンス部門及び朗読部門において 3 名が優秀賞を受賞し、平成 30 年 8 月に長野県で行われる「第 42 回全国高等学校総合文化祭」への出場を決めた。

○吹奏楽部

・「第 72 回東海吹奏楽コンクール」(高校 A 編成の部)において金賞並びに朝日新聞社賞(最高賞)を受賞し、10 月に名古屋で開催された「第 65 回全日本吹奏楽コンクール」に出場、銀賞を受賞した。

・平成 29 年 8 月、宮城県多賀城市において開催された「第 41 回全国高等学校総合文化祭」の吹奏楽部門に出場した。

・平成 30 年 1 月に開催された「愛知県アンサンブルコンテスト」では 1 位、2 位を独占する好成績を収め、2 月に開催された「吹奏楽東海アンサンブルコンテスト」に出場、金管八重奏と木管五重奏の 2 チームが金賞に輝いた。

・平成 30 年 3 月に開催された「第 30 回全日本高等学校選抜吹奏楽大会」において前年度に引き続きゴールデン賞(5 位)及びヤマハ賞を受賞した。

・平成 30 年 3 月、三重県で開催された「第 30 回中部日本個人・重奏コンテスト本大会」でクラリネット四重奏が金賞及び実行委員長賞(3 位)を受賞した。

・平成 30 年 3 月 30 日(金)、名古屋国際会議場において「第 41 回吹奏楽部定期演奏会」を開催し、3,000 人の観客を動員した。

○合唱部

・「第 84 回 NHK 全国学校音楽コンクール愛知県コンクール」(高等学校の部)で銀賞を受賞した。

・平成 29 年 10 月に大阪で開催された「第 70 回全日本合唱コンクール」に出場し、銅賞を受賞した。

・平成 30 年 3 月 24 日(土)、知立市文化会館において「第 41 回合唱部定期演奏会」を開催し、900 人近い観客数を動員した。

【生徒募集・広報活動】

13. 学校見学会を実施

平成 29 年度学校見学会は、[第 1 回]6 月 3 日(土)、[第 2 回]8 月 29 日(火)、[第 3 回]10 月 21 日(土)、[第 4 回]12 月 3 日(日)の計 4 回実施された。各回、ウェルカムステージ・体験入部・学科説明・入試相談などが行われ、中学生・保護者・教員合わせて延べ 2,300 名を超える参加があった。[第 4 回]は、クリスマスページェントのリハーサル見学をメイン内容として実施し、参加者から好評を得た。

【国際交流】

14. 海外語学研修を実施

○国際教養科(2 年生)語学研修

・台湾研修旅行(7 月 13 日～16 日)

62 名が姉妹校・静修女子高級中学校を訪問したほか、現地での異文化体験を楽しんだ。

・オーストラリア語学研修旅行(7 月 15 日～8 月 21 日)

29 名が現地ホームステイや異文化体験、姉妹校にて語学研修などを行った。

○普通科(1・2 年生)海外留学プログラム

・ニュージーランド研修(7 月 24 日～8 月 7 日)

28 名がオークランド近郊でのホームステイや現地生徒との異文化交流を体験したほか、英会話クラスを受講した。

○普通科(2 年生・福祉コース)研修旅行

・デンマーク研修旅行(10 月 15 日～21 日)

19 名が参加し、福祉先進国デンマークの福祉の現場を視察した。

【教育環境整備】

15. 新校舎建設事業(第 1 期)が進行

平成 30 年 4 月の竣工に向けて、テニスコート跡地に新校舎建設事業(第 1 期)が進行している。新校舎は地上 2 階・延床面積 854.04 ㎡で、普通教室 6 教室を配置する計画にあり、教育環境の整備が大きく進展する。また、第 2 期事業として平成 32 年度に新館耐震改築工事を計画しており、「第 2 期中・長期経営計画(平成 28～32 年度)」における一連の施設設備の拡充事業が生徒満足度のさらなる向上につながると見込んでいる。

■幼稚園関連

《聖マリア幼稚園》

○本年度は園の創立 80 周年記念年に当たるため、毎学期、記念イベントを開催した。まず、第1弾として、平成 29 年 5 月 30 日(火)、「全身を使って楽しもう！スポーツフェスタ」を開催し、全園児で準備体操、かけっこ、ゲームなどを楽しんだ(写真)。当日は、応援スタッフとして外部のスポーツクラブからインストラクター 3 名が参加し、イベントを盛り上げてくれた。第 2 弾は、世界的な篠笛奏者の阿部一成氏と和太鼓奏者の高橋勅雄氏を迎え、9 月 21 日(木)に「和楽器演奏会」が開催され、参加した園児・保護者たちは、二人の迫力ある演奏に魅了された。平成 30 年 2 月 16 日(金)には第 3 弾として、劇団風の子による午前・午後の 2 回公演が行われ、園児の飛び入り参加などもあり大いに盛り上がった。一連の記念行事を終え、教職員の視線は、次なる節目である 90 周年、100 周年へと向けられている。

○平成 29 年 5 月 26 日(金)、9 月 30 日に開会式を迎える「えひめ国体」の PR のため、ご当地ゆるキャラ“みきゃん”が来園し、「みきゃんの秘密に迫る質問コーナー」や記念撮影などで、園児たちと触れ合った。

○平成 29 年 6 月 8 日(木)、カトリック司祭で長崎南山中学校・高等学校校長の西　経一氏を講師に迎え、「創立 80 周年記念保護者会講演会」が開催された。当日は約 200 名の保護者が集まり、西氏のユーモアを交えた軽妙な語り口と感動的な話に、笑いあり涙ありの講演会となった。

○平成 29 年 12 月 20 日(水)、新居浜市市民文化センター大ホールにおいて「聖マリア幼稚園創立 80 周年記念クリスマス発表会」を開催した。園児たちは、大きな舞台に緊張しながらも、80 周年を祝う新しい演目を力いっぱい披露し、訪れた多くの来場者から盛大な拍手を受けた。

《聖家族幼稚園》

○平成 29 年 5 月 18 日(木)、園児たちが南丹警察署を訪問し、交通死亡事故根絶を目指して京都府で始まった『ひまわりの絆プロジェクト』に参加した。当日、園児たちは、警察署員からプロジェクトの意味や命の大切さについての話を聞いた後、ひまわりの種植えを行った。その後、京都府警察シンボルマスコットと記念撮影をしたり、パトカーや白バイの乗車体験をしたりして、有意義な一日を過ごした。

○平成 29 年 5 月 24 日(水)、京都府・京都府私立幼稚園連盟主催の「第 40 回口丹地区私立幼稚園　園児大会」が亀岡市民体育館で開催された。当日は、京都府知事を始めとする来賓を迎え、本園を含む 5 園の年長児たちが、団体競技やふれあい遊び、合唱、フォークダンスなどで交流を深めた。また、6 月 23 日(金)には、「いちにち出前ようちえん」が亀岡市において開催され、約 400 名の親子の参加があった。この催しは、

未就園の親子に口丹地区の私立幼稚園をPRする良い機会になっており、本園も毎年参加している。

○平成 29 年 9 月 21 日（木）、「お仕事体験（企業訪問）」の一環として、年長児は、障がい者支援施設の“あしたーる工房”を、年中児は、写真撮影等でお世話になっている北村写真研究所を、それぞれ訪問した。また、9 月 25 日(月)には、年少児が園部消防署を訪問し、消防士から仕事のやりがいやたいへんさなどについて話を聞いた後、消防署内や消防車・救急車・はしご車などの見学を行った。

○スクールバスが更新されることになり、平成 29 年 12 月 21 日(木)の 2 学期終業式終了後、園児たちは「今までお世話になった」スクールバスを自分たちの手で磨いて、感謝の気持ちを表した(写真)。同日、新しいスクールバスが納車され、3 学期より運行している。車体には園庭遊具をモチーフにした本園教員による手描きデザインがラッピングされ、園児たちに好評だ。

《聖カタリナ幼稚園》

○未就園児を対象とする「インファントクラス」を 4 月から 7 月の間、6 クラス編成で各 4 回実施し、52 組の親子の参加を得た。この「インファントクラス」は、本園が導入しているモンテッソーリ教育への理解を深めてもらう機会として展開している親子参加型の保育活動で、中学生プロ棋士として一躍有名になった藤井聡太棋士が幼少時にモンテッソーリ教育を受けていたということがマスコミで取り上げられたこともあり、例年以上に関心を集める取り組みとなった。

○平成 29 年 6 月 2 日(金)、4 月に開設された岡崎市こども発達センター“すくも”の見学説明会が本園を含む市内の私立幼稚園園長を対象に開催された。当日は、相談・医療・支援の 3 つの機能を備えた複合施設を見学した後、スタッフから、発達に心配のある子どもたちの具体的な支援活動について説明を受け、今後、本園における特別支援教育との連携を考えるよい機会となった。

○平成 29 年 5 月 25 日(木)、愛知県内の全学校・幼稚園を対象に「学校安全緊急情報共有化広域ネットワーク活用訓練」が実施され、対象校(園)の約 7 割に相当する 2,048 校（園）が参加した。本園も、市教育委員会からの訓練緊急情報を受信後、教職員による園内外の巡回や玄関・保育室の施錠、保護者へのメールの一斉配信訓練などを行い、園内の緊急体制の検証や教職員の意識啓発の機会とした。

○平成 29 年 11 月 3 日（金・祝）、毎年恒例となっている本園同窓生の集い「カタリナ祭」を開催し、200 名を超える卒園生(小学校 1 年生～6 年生)の参加があった。当日は、スペシャルステージとして、光ヶ丘女子高等学校合唱部 OG を中心に結成された女声合唱団 “VOCI BRILLANTI（ヴォーチ ブリランテ）”による合唱や音楽クイズなどで盛り上がり、その後、参加者全員によるゲームで楽しい再会のひと時を過ごした。

《ロザリオ幼稚園》

○平成 29 年 5 月 15 日(月)、松山東警察署から招待を受けて、年長児 12 名が訪問した。日ごろの見守りに感謝しつつ花束を渡した園児たちは、パトカーや白バイに乗せてもらったり、不思議に思ったことを質問したり、楽しいひとときを過ごした。当日の様子は愛媛 CATV で後日放送された。また、12 月 15 日（金）には、松山中央郵便局の「年賀状引受開始イベント」に招待され、年長児 11 名がトーンチャイムの演奏のほか歌や踊りを披露し、イベントの盛り上げに一役買った（写真）。「年賀状はお早めに」と園児たちが呼びかける様子は、当日のニュースで取り上げられた。

○子どもたちの描いた絵や笑顔の写真が宇宙旅行をするという、「こども宇宙プロジェクト・スマイルミッション」に参加することになった本園園児たちは、平成 29 年 6 月 23 日(金)、プロジェクトを企画した国際総合企画株式会社の担当者からミッションに関する詳しい説明を聞いた後、太陽や地球、星、UFO、宇宙人などの絵を描いて、宇宙への夢や想像を膨らませた。

○平成 29 年 9 月 30 日(土)、「えひめ国体」の総合開会式イベントに年長児 2 名が参加した。県民総参加の大会となるよう企画された『みきゃんリレー』で、バトンに見立てた“みきゃん”のぬいぐるみ 6 体が県内各地から集合するイベントに参加したもので、最終ランナーとなった園児の愛らしい走りに会場から声援が送られた。

○愛媛県内の多くの小学校で卒業式が行われた平成 30 年 3 月 22 日(木)、6 年前に本園を卒園した「元園児」たちが、小学校の卒業証書を携え来園した。卒業報告をしようと、互いに声を掛け合い集まったという 11 名は、幼稚園への感謝や後輩園児たちへの激励のメッセージを綴ったカードを手作りし、自分たちで考えた進行に沿ってミニ報告会を開いた。臨席した園長や教職員は、卒園生たちの成長ぶりに感動すると共に、幼児教育に携わる喜びをあらためて味わうこととなった。

《聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園》

○平成 29 年 6 月 18 日(日)、日曜参観を実施した。参加した保護者たちは、普段家庭では見られない、子どもたちの自立した様子を見て、「わが子の成長」を実感したようだった。また、降園の際には、非常時の訓練として、本年度初めての「引き渡し訓練」を行ったが、大きなトラブルもなく円滑に実施することができた。以降も、園児たちの安全確保を徹底するため、園行事の機会を利用して複数回実施した。

○平成 29 年 7 月 19 日(水)、松山市消防局による「子ども花火教室」を開催した。来園した予防課職員から、花火の正しい遊び方について説明を受けた後、園児たちは園庭に出て、手持ち花火を体験し、学んだことを実践した。また、当日は、松山市消防局のキャラクター“はっぴーカバー君”も来園し、園児たちと楽しいひとときを過ごした。この活動の様子は地元紙や CATV でも採り上げられた。

○本園は聖カタリナ大学及び短期大学部の教員と連携した保育活動を取り入れているが、本年度においては、聖カタリナ大学健康スポーツ学科教員による「体育あそび」を年齢対象別に実施し、楽しみながら体力作りに繋がっていると、好評を得た。また、短期大学部保育学科教員による「保健指導」においては、身体の各部位の名称や体内時計、歯の大切さ、排便の仕組み、正しい手の洗い方など、身近なテーマを取り上げ、健康について楽しく学んだほか、同じく保育学科教員による年長児を対象とした「造形あそび」を計 5 回実施し、絵や折り紙を素材にしたストーリー作りや絵画制作などを通じて創造力を育んだ(写真)。

○平成 29 年 10 月 11 日(水)、幼稚園・保育園及び小学校の連携活動の一環として、近隣小学校の校長や教員、及び近隣幼稚園・保育園の教員らが来園し、本園の保育活動を参観した。この活動は、幼稚園・保育園と小学校が連携して子供たちの成長を間断なく支援することを目的に毎年持ち回り形式で実施されており、本年度は本園が会場となった。参観者から聴取した意見や感想は、小学校への円滑な接続を見据えた今後の保育活動に活かしていくこととしている。

■

Ⅳ. 当期に行った主な事業

（1）固定資産の取得状況(第1号基本金組入れ対象事業)

※掲載対象:取得価額 5,000 千円以上

設置校名	細　　目	金 額（千円）
聖カタリナ大学・短期大学部	松山市駅キャンパス校地（聖カタリナ学園高等学校より移管）	34,902
	松山市駅キャンパス　セキュリティシステム一式　※リース契約(5 年)	29,296
	2 号館 2 階・3 階一部空調設備更新工事	11,470
	1 号館エレベーター更新工事	9,936
	図書（専門図書、学術図書、選定図書、参考図書等）	9,152
	附属図書館（分館）ゲートシステム　※リース契約(5 年)	8,217
	附属図書館床置空調設備更新	7,668
	松山市駅キャンパス追加工事	6,804
聖カタリナ学園高等学校	セミナーハウスグラウンド拡張・開発工事　※建設仮勘定	33,307
	セミナーハウス隣接地＆市有地購入(売買仲介料・登記費用含む)	24,818
	野球部室内練習場新設工事他　※建設仮勘定	19,829
	セミナーハウス監守用部屋改修工事	15,500
	本館 1 階男子トイレ新設工事	13,195
	特別教棟地歴公民科教室改修工事	10,506
	スクールバス取得	6,711
光ヶ丘女子高等学校	新校舎建設工事(企画・設計料等含む)　※建設仮勘定	180,392
	本館 1 階改修工事（調理室・理科準備室）＆調理室用機器・備品	16,392
	清光寮老朽化対応工事（3 階居室・1 階学習室・浴室）	11,875
	受電設備更新	10,800
	清光寮本館中央トイレ改修工事	7,430
	新校舎用機器・備品	6,986
	教育棟改修工事（1 階職員用トイレ・3 階美術室）	6,327
	管理サーバー用パソコン一式	5,383
聖家族幼稚園	スクールバス更新　※リース契約（7年）	6,686
聖カタリナ短大附属幼稚園	スクールバス更新　※リース契約（7年）	6,686

（2）教育研究経費の主な事業実績

※掲載対象:3,000 千円以上

設置校名	細　　目		金 額（千円）
聖カタリナ大学・短期大学部	学内 ICT システム等運用・保守業務等委託費（※管理経費分含む）	北条キャンパス	6,603
		松山市駅キャンパス	10,210
	日常・定期清掃業務委託費	北条キャンパス	5,404
		松山市駅キャンパス	4,087
	パイプオルガン修理費		6,000
	クラブ活動助成金		5,309

設置校名	細　　目	金 額 （千円）
聖カタリナ大学・短期大学部	植栽管理・環境保全業務委託費	4,380
	サッカー部監督業務委託料	3,600
聖カタリナ学園高等学校	耐震診断費（本館・南棟・朝生田体育館）	6,642
京都聖カタリナ高等学校	本館廊下・階段床改修工事	3,100
光ヶ丘女子高等学校	建物火災・地震保険料（※管理経費分含む）	4,377
聖マリア幼稚園	スクールバス運行料(2 台)	4,385
聖カタリナ幼稚園	スクールバス運行料(2 台)	3,920
ロザリオ幼稚園	スクールバス運行料(3 台)	8,034

（3）管理経費の主な事業実績

※掲載対象：3,000 千円以上

設置校名	細　　目	金 額 （千円）
法人本部	会計監査等契約料	8,640
	理事会・評議員会旅費	4,644
聖カタリナ大学・短期大学部	スクールバス運行料	26,074
	松山市駅キャンパス警備委託料(常駐)	9,980
	大学案内（15,000 部）・入試要項(大学 10,000 部・短大 7,000 部)	7,976
聖カタリナ学園高等学校	耐震診断費(聖堂・生徒食堂・生徒寮)	5,130
	学校案内(20,000 部)・スクールガイド(27,000 部)	3,225
光ヶ丘女子高等学校	清光寮屋上防水工事	6,480
	学校案内・募集要項(各 32,000 部)	4,536

Ⅴ．財務の概要

（1）平成29年度決算概要

平成 29 年度決算は、資金収支計算書においては資金収支差額が△2 億 68 百万円となり、予算比で 1 億 78 百万円増、前年度比で 1 億 22 百万円減となった。活動区分資金収支計算書における教育活動資金収支差額は 3 億 69 百万円となり、予算比で 7 百万円増、前年度比で 2 百万円減となった。また、事業活動収支計算書における経常収支差額は 88 百万円となり、予算比で 63 百万円増、前年度比で 27 百万円増となった。また、学校経営の財務上の健全性を表す基本金組入前当年度収支差額は 77 百万円と、予算比で 69 百万円増、前年度比で 33 百万円増となった。貸借対照表における正味財産額（＝純資産の部合計）は 133 億 96 百万円と、前年度比で 77 百万円増となった。

【参考】 収支差額総括表

（単位：千円）

収支差額区分	H29 決算	H29 予算	差　異	前年度決算	差　異
資金収支差額	△268,251	△446,476	+178,225	△145,517	△122,734
教育活動資金収支差額	369,984	362,250	+7,734	372,036	△2,052
経常収支差額	88,437	24,579	+63,858	60,606	+27,831
基本金組入前当年度収支差額	77,636	8,288	+69,348	43,827	+33,809

◆事業活動収支決算概要

①教育活動収支差額　87 百万円

教育活動収支における事業活動収入は 41 億 21 百万円、事業活動支出は 40 億 34 百万円で、結果、教育活動収支差額は+87 百万円となり、予算比で 63 百万円の黒字増となった。同差額は、学校法人の本業である教育活動における収支バランスの健全性を表す重要指標であることから、赤字となっている設置校(部門)においては赤字幅縮小、黒字への早期転換が喫緊の課題である。

②教育活動外収支差額　1 百万円

教育活動外収支における事業活動収入（受取利息・配当金）は 2 百万円、事業活動支出（借入金等利息）は 1 百万円で、結果、教育活動外収支差額は＋1 百万円となり、予算比で 2 万円減となった。

③経常収支差額（①+②）　88 百万円

①教育活動収支差額と②教育活動外収支差額の合計額である経常収支差額は+88 百万円となり、予算比で 63 百万円の黒字増となった。同差額は経常的な事業活動が安定的であるかどうかを判断する重要指標であるため、適正黒字の確保に向けた経営改善が重点的課題となっている。

④特別収支差額　△10 百万円

特別収支における事業活動収入は 16 百万円（うち、施設設備寄付金が 9 百万円、施設設備補助金が 6 百万円）、事業活動支出は 27 百万円（うち、退職給与引当金特別繰入額が 22 百万円）で、結果、特別収支差額は△10 百万となり、予算比で 5 百万円の赤字減となった。

⑤基本金組入前当年度収支差額（③＋④）　77 百万円

基本金組入前当年度収支差額（旧「帰属収支差額」）は 77 百万円の黒字となり、予算比で 69 百万円の改善、前年度比で 33 百万円黒字幅が拡大した。

【参考】基本金組入前当年度収支差額（＝旧「帰属収支差額」） 実績推移　（金額単位：千円）

年　度	H25	H26	H27	H28	H29
基本金組入前当年度収支差額	△57,121	59,700	△271,682	43,827	77,636
事業収支差額比率	△1.6%	1.6%	△7.1%	1.1%	1.9%

（注）上表、平成 27 年度の基本金組入前当年度収支差額の赤字（△271 百万円）の主な要因は、聖カタリナ学園高等学校における永代校舎取り壊し等に伴う特別支出（建物処分差額 308 百万円）の計上によるものである。

⑥基本金組入 （基本金組入額 6 億 2 百万円、取崩額 23 百万円）

第 1 号基本金 ：	当期に取得した固定資産に係る組入高	3 億 4 百万円
	過年度未組入に係る当期組入高	82 百万円
	建設仮勘定に係る組入高	2 億 59 百万円
	除却した固定資産に係る基本金額（△）	50 百万円
	当期未組入高(△)	43 百万円
第 2 号基本金 ：	光ヶ丘女子高等学校校舎耐震改築資金	50 百万円
第 3 号基本金 ：	光ヶ丘女子高等学校国際交流振興基金廃止に伴う取崩し(△)	20 百万円

第 4 号基本金 ： 取崩額 3 百万円（※学校法人会計基準の改正に伴う「恒常的に保持すべき資金の額」（第 4 号基本金）の取扱い変更によるもの。）

⑦当年度収支差額 △5 億 24 百万円、 翌年度繰越収支差額 △51 億 45 百万円

基本金組入後の当年度収支差額は△5 億 24 百万円となり、前年度繰越収支差額△46 億 43 百万円及び基本金取崩額 23 百万円を合算した結果、翌年度繰越収支差額は△51 億 45 百万円となった。

（2）平成29年度計算書類

1）資金収支計算書（平成 29 年 4 月1日～平成 30 年 3 月 31 日）

（金額単位：円）

科　　目	予　算　（A）	決　算　（B）	差　異　(A) - (B)
学生生徒等納付金収入	2,321,285,304	2,328,657,929	△7,372,625
手数料収入	45,551,000	42,637,395	2,913,605
寄付金収入	80,664,710	78,184,146	2,480,564
補助金収入	1,428,665,264	1,426,619,850	2,045,414
国庫補助金収入	180,192,000	146,783,000	33,409,000
地方公共団体補助金収入	1,248,473,264	1,279,836,850	△31,363,586
資産売却収入	1,000	20,000	△19,000
付随事業・収益事業収入	86,038,147	97,600,134	△11,561,987
受取利息・配当金収入	2,586,712	2,562,296	24,416
雑収入	138,649,666	163,417,699	△24,768,033
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	428,677,000	383,758,737	44,918,263
その他の収入	327,641,926	332,039,002	△4,397,076
資金収入調整勘定	△583,294,074	△626,680,709	43,386,635
資金収入　小計　①	**4,276,466,655**	**4,228,816,479**	**47,650,176**
前年度繰越支払資金	2,292,078,616	2,292,078,616	－
収入の部 合計	**6,568,545,271**	**6,520,895,095**	**47,650,176**
人件費支出	2,656,629,291	2,708,495,184	△51,865,893
教育研究経費支出	848,225,460	791,885,246	56,340,214
管理経費支出	236,042,845	220,442,523	15,600,322
借入金等利息支出	1,422,875	1,422,875	0
借入金等返済支出	33,559,450	33,559,450	0
施設関係支出	579,368,613	415,269,760	164,098,853
設備関係支出	148,587,191	147,870,321	716,870
資産運用支出	68,000,000	68,000,000	0
その他の支出	238,802,692	244,113,040	△5,310,348
［予備費］	(14,430,000) 0	－	0
資金支出調整勘定	△87,695,659	△133,990,935	46,295,276
資金支出　小計　②	**4,722,942,758**	**4,497,067,464**	**225,875,294**
翌年度繰越支払資金	1,845,602,513	2,023,827,631	△178,225,118
支出の部　合計	**6,568,545,271**	**6,520,895,095**	**47,650,176**

資金収支差額　(①－②)	**△446,476,103**	**△268,250,985**	**△178,225,118**

※活動区分資金収支計算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(単位:円)

科目			金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,328,657,929
		手数料収入	42,637,395
		特別寄付金収入	39,116,400
		一般寄付金収入	29,807,535
		経常費等補助金収入	1,420,131,850
		付随事業収入	97,600,134
		雑収入	163,417,699
		教育活動資金収入計	4,121,368,942
	支出	人件費支出	2,708,495,184
		教育研究経費支出	791,885,246
		管理経費支出	220,442,523
		教育活動資金支出計	3,720,822,953
	差引		400,545,989
	調整勘定等		△30,562,161
	教育活動資金収支差額		369,983,828
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	9,260,211
		施設設備補助金収入	6,488,000
		施設設備売却収入	20,000
		預　託　金 収 入	15,000
		施設整備等活動資金収入計	15,783,211
	支出	施設関係支出	415,269,760
		設備関係支出	147,870,321
		第２号基本金引当特定資産繰入支出	50,000,000
		設備資金引当特定資産繰入支出	4,000,000
		減価償却引当特定資産繰入支出	14,000,000
		預　託　金 支 出	24,950
		施設整備等活動資金支出計	631,165,031
	差引		△615,381,820
	調整勘定等		△31,762,130
	施設整備等活動資金収支差額		△647,143,950
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△277,160,122
その他の活動による資金収支	収入	第３号基本金引当特定資産取崩収入	20,000,000
		受取利息･配当金収入	2,562,296
		預　り　金　収 入	7,145,668
		立　替　金　収 入	354,690
		仮　払　金 収 入	41,999
		仮　受　金　収 入	1,368
		修学旅行積立預金　収 入	57,357,154
		その他の活動資金収入計	87,463,175
	支出	借入金等返済支出	33,559,450
		借入金等利息支出	1,422,875
		預　り　金　支 出	4,212,264
		立　替　金　支 出	861,745
		修学旅行積立預金　支 出	53,154,636
		修学旅行積立預り金支 出	4,202,518
		敷　　金　支 出	150,000
		その他の活動資金支出計	97,563,488
	差引		△10,100,313
	調整勘定等		19,009,450
	その他の活動資金収支差額		8,909,137
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△268,250,985
前年度繰越支払資金			2,292,078,616
翌年度繰越支払資金			2,023,827,631

2)事業活動収支計算書（平成 29 年 4 月1日～平成 30 年 3 月 31 日）

（金額単位：円）

科目			予算（A）	決算（B）	差異 (A) - (B)
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	2,321,285,304	2,328,657,929	△7,372,625
		手数料	45,551,000	42,637,395	2,913,605
		寄付金	72,304,710	69,317,055	2,987,655
		経常費等補助金	1,427,577,264	1,420,131,850	7,445,414
		国庫補助金	179,104,000	145,695,000	33,409,000
		地方公共団体補助金	1,248,473,264	1,274,436,850	△25,963,586
		付随事業収入	86,038,147	97,634,499	△11,596,352
		雑収入	138,649,666	163,417,699	△24,768,033
		教育活動収入計	4,091,406,091	4,121,796,427	△30,390,336
	支出の部	人件費	2,656,719,291	2,688,256,479	△31,537,188
		教育研究経費	1,132,621,329	1,079,958,852	52,662,477
		管理経費	278,650,210	262,889,400	15,760,810
		徴収不能額等	0	3,394,000	△3,394,000
		教育活動支出計	4,067,990,830	4,034,498,731	33,492,099
	教育活動収支差額		**23,415,261**	**87,297,696**	**△63,882,435**
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	2,586,712	2,562,296	24,416
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,586,712	2,562,296	24,416
	支出の部	借入金等利息	1,422,875	1,422,875	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	1,422,875	1,422,875	0
	教育活動外収支差額		**1,163,837**	**1,139,421**	**24,416**
経常収支差額			**24,579,098**	**88,437,117**	**△63,858,019**
特別収支	収入の部	資産売却差額	1,000	20,000	△19,000
		その他の特別収入	9,677,600	16,281,275	△6,603,675
		特別収入計	9,678,600	16,301,275	△6,622,675
	支出の部	資産処分差額	3,707,800	4,840,735	△1,132,935
		その他の特別支出	22,262,000	22,262,000	0
		特別支出計	25,969,800	27,102,735	△1,132,935
	特別収支差額		**△16,291,200**	**△10,801,460**	**△5,489,740**
〔予備費〕			(14,430,000) 0	－	0
基本金組入前当年度収支差額			**8,287,898**	**77,635,657**	**△69,347,759**
基本金組入額合計			△774,762,614	△601,776,488	△172,986,126
当年度収支差額			**△766,474,716**	**△524,140,831**	**△242,333,885**
前年度繰越収支差額			△4,643,900,447	△4,643,900,447	－
基本金取崩額			20,000,000	23,000,000	△3,000,000
翌年度繰越収支差額			△5,390,375,163	△5,145,041,278	△245,333,885

3）貸借対照表（平成 30 年 3 月 31 日現在）

（金額単位：円）

科　　目	本年度末　（A）	前年度末　（B）	増　減　（A）-（B）
固　定　資　産	13,569,681,319	13,302,173,808	267,507,511
有形固定資産	12,235,985,733	12,006,991,944	228,993,789
土　　地	2,372,352,196	2,370,489,360	1,862,836
建　　物	7,802,588,868	7,891,444,833	△88,855,965
構　築　物	400,957,089	414,326,481	△13,369,392
教育研究用機器備品	563,342,149	517,851,927	45,490,222
管理用機器備品	37,898,250	34,749,744	3,148,506
図　　書	738,135,297	726,962,005	11,173,292
車　　両	58,948,531	48,667,594	10,280,937
建設仮勘定	261,763,353	2,500,000	259,263,353
特定資産	1,312,000,000	1,264,000,000	48,000,000
その他の固定資産	21,695,586	31,181,864	△9,486,278
流　動　資　産	2,264,690,242	2,609,265,636	△344,575,394
現　預　金	2,023,827,631	2,292,078,616	△268,250,985
その他の流動資産	240,862,611	317,187,020	△76,324,409
資産の部　合計	**15,834,371,561**	**15,911,439,444**	**△77,067,883**
固　定　負　債	1,780,478,610	1,814,402,820	△33,924,210
長期借入金	1,317,593,538	1,377,221,024	△59,627,486
長期未払金	51,787,944	28,107,963	23,679,981
退職給与引当金	411,097,128	409,073,833	2,023,295
流　動　負　債	656,898,893	777,678,223	△120,779,330
短期借入金	59,627,486	33,559,450	26,068,036
前　受　金	383,758,737	442,939,210	△59,180,473
その他の流動負債	213,512,670	301,179,563	△87,666,893
負債の部　合計	**2,437,377,503**	**2,592,081,043**	**△154,703,540**
基　本　金	18,542,035,336	17,963,258,848	578,776,488
第 1 号基本金	18,023,035,336	17,471,258,848	551,776,488
第 2 号基本金	50,000,000	0	50,000,000
第 3 号基本金	200,000,000	220,000,000	△20,000,000
第 4 号基本金	269,000,000	272,000,000	△3,000,000
繰越収支差額	△5,145,041,278	△4,643,900,447	△501,140,831
翌年度繰越収支差額	△5,145,041,278	△4,643,900,447	△501,140,831
純資産の部 合計	**13,396,994,058**	**13,319,358,401**	**77,635,657**
負債及び純資産の部　合計	**15,834,371,561**	**15,911,439,444**	**△77,067,883**

◇正味財産額　13,396,994,058 円　(前年度比 +77,635,657 円)　(参)前年度　13,319,358,401 円

※正味財産額=純資産の部合計（基本金＋繰越収支差額）

【参考】 学校法人会計基準について

学校法人は、一般事業法人と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通した人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過分な設備投資や場当たり的な運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。

こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和 46 年に文部省令第 18 号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第 14 条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。

なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成 25 年 4 月 22 日文部科学省令第 15 号）が平成 27 年 4 月 1 日に施行され、平成 27 年度以降の予算・決算に適用されています。

以下は、「新・学校法人会計基準」に関する解説です。

1）計算書類について

資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を表すとともに、当該会計年度の支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金)の収入及び支出の顛末を表します。

活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の決算額を 3 つの活動、すなわち、「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの資金収支を明らかにします。この計算書は、会計基準改正に伴い平成 27 年度から作成が義務付けられましたが、様式の特性から、決算時のみ所轄庁へ提出することになっています。

事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収入（学校の負債とならない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給与引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。会計基準の改正の伴い「区分経理」が導入され、収支を経常的収支と臨時的収支に、経常的収支を教育活動収支と教育活動外収支に分けて表示することになりました。

【基本金について】

基本金とは、学校法人会計基準第 29 条において、「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業活動収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」と規定されており、次の第1号から第4号に該当するものです。なお、「その諸活動の計画に基づき必要な資産」とは、教育研究活動に必要な校地、校舎、機器備品、図書等のことで、すべて自己資金による取得が基本金の条件となっています。

第1号基本金 ： 学校法人が教育研究活動に供するために自己資金により取得した土地、建物、設備等の固定資産の価額

第2号基本金 ： 新たな学校・学部の設立や施設設備等の規模拡充に伴う将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額

第3号基本金 ： 奨学基金や研究基金等の積立額。その運用果実により教育研究活動を支援するための資金

第4号基本金 ： 恒常的に保持すべき資金として、学校法人会計基準により定められた金額

貸借対照表

一定時点(本学は3月末現在)の資産・負債・純資産（基本金と繰越収支差額の合計）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

2）勘定科目について

計算書類で使用する勘定科目とその内容は次の通りです。

①資金収支計算書の勘定科目

勘定科目		内容
収入の部	学生生徒等納付金収入	教育研究活動の提供の対価として学生・生徒等から徴収する納付金収入
	手数料収入	入学試験及び在学証明、成績証明等を発行する際に徴収する収入
	寄付金収入	金銭その他の資産を寄贈者から贈与されたもので、用途指定がある寄付金を「特別寄付金収入」、用途指定がない寄付金を「一般寄付金収入」として計上する。
	補助金収入	国や地方公共団体などから交付される補助金収入
	資産売却収入	学校法人が保有する固定資産を売却した際の収入で、実際の売却額を計上する。
	付随事業・収益事業収入	食堂・売店・学生寮等、教育活動に付随する活動に係る事業の収入のほか、外部から委託を受けた研究等による収入や収益事業会計からの繰入収入
	受取利息・配当金収入	第 3 号基本金引当特定資産の運用による収入のほか、預金や貸付金等の利息、株式の配当金等による収入
	雑収入	施設設備利用料収入、廃品売却収入、退職金財団等交付金収入その他学校法人の負債とならない上記の各収入以外の収入
	借入金等収入	日本私立学校振興・共済事業団や銀行等、金融機関からの借入による収入
	前受金収入	翌年度分の授業料・入学金等が当年度に納入された収入で、主に新入生の入学手続きが入学年度の前の年度中に行われるため、前受金収入として計上する。
	その他の収入	各種特定資産からの繰入収入や前期末未収入金収入、預り金収入、立替金収入、仮払金収入など、上記の各収入以外の収入
	資金収入調整勘定	当年度の諸活動に対応する収入だが、実際の資金の収入が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前受金と期末未収入金としてそれぞれ計上する。
前年度繰越支払資金		前年度から繰り越された現預金の残高
収入の部　合計		―
支出の部	人件費支出	教職員に対する本俸、期末手当、その他の手当、所定福利費、退職金財団等掛金、退職金及び役員に支払う報酬
	教育研究経費支出	学校法人の主たる目的である教育研究活動や学生生徒等の学習支援などのために支出する経費で、消耗品費、光熱水費、旅費交通費、奨学費、通信運搬費、印刷費、施設設備修理費、賃借料、報酬・委託・手数料などがある。
	管理経費支出	学校法人の管理運営のために支出する経費で、役員の行う業務執行のために要する経費や、総務・人事・財務その他法人業務に要する経費、教職員の福利厚生のための経費、教育研究活動以外に使用する施設設備の修繕・維持・保全に要する経費、学生生徒等の募集のために要する経費などがある。
	借入金等利息支出	借入金等の利息に係る支出
	借入金等返済支出	借入金等の元金の返済に係る支出
	施設関係支出	土地・建物・構築物等の取得に係る支出
	設備関係支出	機器備品や図書、車両、ソフトウェア(資産計上されるもの)等の取得に係る支出
	資産運用支出	運用目的で有価証券を購入した場合や各種特定資産に繰り入れる際に計上する。
	その他の支出	前期末未払金の支払支出や預り金、立替金、仮払金など、上記以外の支出
	［予備費］	予算化されていない突発的な事象に対応するために計上する額
	資金支出調整勘定	当年度の諸活動に対応する支出だが、実際の資金の支出が前年度以前または翌年度以降のもので、前期末前払金と期末未払金としてそれぞれ計上する。

翌年度繰越支払資金	翌年度へ繰り越される現預金の残高
支出の部　合計	―

②事業活動収支計算書の勘定科目

勘定科目名		内　　容
教育活動収支	学生生徒等納付金	①資金収支計算書と同じ
	手数料	①資金収支計算書と同じ
	寄付金	①に加え、金銭以外の資産で寄付を受けた場合、その取得のために通常要する価格をもって「現物寄付金」として計上する（施設設備に係る寄付金・現物寄付は除く。）現物寄付は支払資金の増加がないため、①には記載されない。
	経常費等補助金	施設設備補助金以外の補助金
	付随事業収入	食堂、売店、学生寮等、教育活動等に付随する活動に係る収入や外部から委託を受けた研究等による収入
	雑収入	①資金収支計算書と同じ
	教育活動収入計	―
	人件費	①の人件費支出から退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額を加えた額。なお、退職給与引当金への繰入れが不足していた場合には、当該会計年度における退職金支払額と退職給与引当金計上額との差額を退職金として計上する。
	教育研究経費	①に教育研究用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	管理経費	①に管理用減価償却資産に係る当該会計年度分の減価償却額を加えた額
	徴収不能額等	未収入金について、将来徴収不能となるおそれのある場合は、当該徴収不能の見込み額を一定の方法に拠って見積もり、徴収不能引当金に繰入れる。また、未収入金について、徴収不能と判断した場合は、徴収不能額として計上する。
	教育活動支出計	―
	教育活動収支差額	経常的な収支のうち、本業の教育活動の収支状況を表す。教育活動外の収支は含まれないため、経常収支差額よりも明確に本業である教育活動の収支バランスを判断する指標となる。
教育活動外収支	受取利息・配当金	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外収入	収益事業会計からの繰入収入
	教育活動外収入計	―
	借入金等利息	①資金収支計算書と同じ
	その他の教育活動外支出	為替換算差額などの支出
	教育活動外支出計	―
	教育活動外収支差額	経常的な収支のうち、財務活動による収支状況を表す。
経常収支差額		教育活動収支差額と教育活動外収支差額の合計。経常的な事業活動による収入とコストの収支バランスを表す。特別収支を除いた収支差額であるため、経常的な事業活動が安定的であるか否かを判断する指標となる。
特別収支	資産売却差額	資産売却収入が当該資産の帳簿残高を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別収入	施設設備拡充等のための寄付金、施設設備の受贈額、施設設備拡充等のための補助金、及び過年度修正額などによる収入
	特別収入計	―
	資産処分差額	資産の帳簿残高が当該資産の売却収入金額を超える場合に、その超過額を計上する。
	その他の特別支出	災害損失や過年度修正額などによる支出

	特別支出計	―
	特別収支差額	資産売却・処分、施設設備寄付金、施設設備補助金などの臨時的な収支を表す。
［予　備　費］		①資金収支計算書と同じ
基本金組入前当年度収支差額		事業活動収入から事業活動支出を差し引いた額。学校法人に基本金を組み入れる余力がどの程度あるのかを判断する指標。単年度における事業活動全体の収支バランス（従前の「帰属収支差額」）を把握するため、会計基準の改正の伴い、新たに表示されることになった。
基本金組入額合計		第1号から第4号までの基本金組入額の合計。学校法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額。
当年度収支差額		長期の収支バランスを表す(従前の「○年度消費収入(支出)超過額」)。
前年度繰越収支差額		
翌年度繰越収支差額		

（参考）

事業活動収入計	従前の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入などの負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入を表す。
事業活動支出計	従前の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、資金支出を伴わない減価償却費や各種引当金、資産処分差額等が含まれ、学校法人の正味の費用を表す。

③貸借対照表の勘定科目

勘定科目名	内　　容
有形固定資産	土地・建物・構築物・機器備品・図書・車両・建設仮勘定等
特定資産	使途が特定された預金等をいう。会計基準の改正に伴い、「第２号基本金」に対応する資産として「第２号基本金引当特定資産」が新設された。
その他の固定資産	ソフトウェア、長期に保有する有価証券、長期未収入金など
流動資産	現金預金、未収入金、一時的に保有する有価証券、立替金、仮払金、前払金など
資産の部合計	―
固定負債	長期借入金、長期未払金、退職給与引当金など
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金、仮受金など
負債の部合計	―
基本金	第１号から第４号基本金(※既述)
繰越収支差額	事業活動収支差額の累積額
純資産の部合計	会計基準の改正に伴い、基本金と繰越収支差額の合計を表す「純資産の部合計」が新設された。
負債及び純資産の部合計	―

学校
法人 聖カタリナ学園

平成29年度事業報告書
学校法人聖カタリナ学園　法人本部事務局

資　金　収　支　計　算　書

平成２９年４月　１日から
平成３０年３月３１日まで

(単位:円)

収入の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	**2,321,285,304**	**2,328,657,929**	**△ 7,372,625**
授　業　料　収入	1,536,644,604	1,536,311,875	332,729
入　学　金　収入	202,524,000	203,710,000	△ 1,186,000
実験実習料　収入	59,328,200	65,608,804	△ 6,280,604
施設設備費　収入	189,410,000	189,250,050	159,950
教育充実費　収入	318,971,400	319,306,200	△ 334,800
学園維持費　収入	14,407,100	14,471,000	△ 63,900
手数料収入	**45,551,000**	**42,637,395**	**2,913,605**
入学検定料　収入	44,408,000	41,264,000	3,144,000
試　験　料　収入	768,000	945,690	△ 177,690
証明手数料　収入	375,000	427,705	△ 52,705
寄付金収入	**80,664,710**	**78,184,146**	**2,480,564**
特別寄付金　収入	55,619,710	48,376,611	7,243,099
一般寄付金　収入	25,045,000	29,807,535	△ 4,762,535
補助金収入	**1,428,665,264**	**1,426,619,850**	**2,045,414**
国庫補助金　収入	180,192,000	146,783,000	33,409,000
地方公共団体補助金　収入	1,248,473,264	1,279,836,850	△ 31,363,586
資産売却収入	**1,000**	**20,000**	**△ 19,000**
設備売却　収入	1,000	20,000	△ 19,000
付随事業・収益事業収入	**86,038,147**	**97,600,134**	**△ 11,561,987**
補　助　活　動　収入	84,294,147	93,975,756	△ 9,681,609
受　託　事　業　収入	1,200,000	1,971,378	△ 771,378
公　開　講　座　収入	544,000	1,653,000	△ 1,109,000
受取利息・配当金収入	**2,586,712**	**2,562,296**	**24,416**
第３号基本金引当特定資産運用　収入	456,095	456,503	△ 408
その他の受取利息・配当金　収入	2,130,617	2,105,793	24,824
雑収入	**138,649,666**	**163,417,699**	**△ 24,768,033**
施設設備利用料　収入	8,515,160	10,545,076	△ 2,029,916
廃　品　売　却　収入	20,000	24,112	△ 4,112
退職金財団等交付金　収入	110,129,098	129,438,203	△ 19,309,105
その他の雑　収入	19,985,408	23,410,308	△ 3,424,900
借入金等収入	**0**	**0**	**0**
前受金収入	**428,677,000**	**383,758,737**	**44,918,263**
授業料前受金　収入	117,080,500	105,547,750	11,532,750
入学金前受金　収入	177,767,500	183,377,500	△ 5,610,000
実験実習料前受金収入	3,049,000	2,743,500	305,500
施設設備費前受金収入	65,980,000	48,550,000	17,430,000
教育充実費前受金収入	53,980,000	35,814,000	18,166,000
学園維持費前受金収入	0	21,600	△ 21,600
その他の前受金　収入	10,820,000	7,704,387	3,115,613
その他の収入	**327,641,926**	**332,039,002**	**△ 4,397,076**
第３号基本金引当特定資産取崩　収入	20,000,000	20,000,000	0
前期末未収入金　収入	252,914,520	251,690,077	1,224,443
預　り　金　収入	392,286	2,933,404	△ 2,541,118
仮　払　金　収入	0	41,999	△ 41,999
仮　受　金　収入	0	1,368	△ 1,368
修学旅行費積立預金収入	54,320,120	57,357,154	△ 3,037,034
預　託　金　収入	15,000	15,000	0
資金収入調整勘定	**△ 583,294,074**	**△ 626,680,709**	**43,386,635**
期末　未収入金	△ 140,354,864	△ 183,741,499	43,386,635
前期末　前受金	△ 442,939,210	△ 442,939,210	0
前年度繰越支払資金	2,292,078,616	2,292,078,616	
収入の部 合計	**6,568,545,271**	**6,520,895,095**	**47,650,176**

(単位:円)

支 出 の 部			
科　　目	予　算	決　算	差　異
人件費支出	**2,656,629,291**	**2,708,495,184**	**△51,865,893**
教員人件費　支出	2,064,189,098	2,074,368,226	△ 10,179,128
職員人件費　支出	474,025,461	486,063,347	△ 12,037,886
役員報酬　支出	8,158,634	8,158,634	0
退職金　支出	110,256,098	139,904,977	△ 29,648,879
教育研究経費支出	**848,225,460**	**791,885,246**	**56,340,214**
消耗品費　支出	73,993,031	73,993,031	0
光熱水費　支出	82,152,956	82,152,956	0
旅費交通費　支出	32,406,313	31,699,110	707,203
車両燃料費　支出	1,664,992	1,511,483	153,509
奨学費　支出	264,674,150	264,292,400	381,750
教育実習諸経費　支出	20,377,052	13,766,505	6,610,547
生徒福利費　支出	29,904,123	28,798,983	1,105,140
通信運搬費　支出	15,233,843	15,233,843	0
印刷費　支出	13,910,989	11,915,095	1,995,894
施設設備修理費　支出	76,691,671	49,560,928	27,130,743
衛生清掃費　支出	12,933,893	12,933,893	0
損害保険料　支出	10,771,337	9,794,475	976,862
賃借料　支出	20,436,452	20,088,954	347,498
公租公課　支出	1,501,466	1,409,117	92,349
諸会費　支出	12,379,982	11,799,088	580,894
会議費　支出	270,880	94,740	176,140
報酬・委託・手数料支出	143,952,258	140,592,735	3,359,523
行事費　支出	2,230,000	2,141,388	88,612
研究旅費　支出	13,160,000	6,226,464	6,933,536
研究経費　支出	19,000,000	13,437,139	5,562,861
雑費　支出	580,072	442,919	137,153
管理経費支出	**236,042,845**	**220,442,523**	**15,600,322**
消耗品費　支出	11,014,254	9,803,766	1,210,488
光熱水費　支出	10,720,289	9,754,829	965,460
旅費交通費　支出	16,106,478	16,106,478	0
車両燃料費　支出	233,194	233,194	0
福利厚生費　支出	7,417,453	7,297,194	120,259
通信運搬費　支出	7,341,569	6,427,626	913,943
印刷費　支出	20,256,866	18,882,166	1,374,700
施設設備修理費　支出	23,832,836	10,864,692	12,968,144
衛生清掃費　支出	2,370,042	1,521,672	848,370
損害保険料　支出	1,102,466	844,343	258,123
賃借料　支出	12,546,465	12,246,991	299,474
公租公課　支出	5,212,560	4,289,597	922,963
消費税　支出	1,740,000	682,700	1,057,300
広告費　支出	31,674,506	30,948,608	725,898
諸会費　支出	5,771,315	5,276,933	494,382
会議費　支出	8,000	0	8,000
交際費　支出	10,485,348	7,941,662	2,543,686
報酬・委託・手数料支出	67,947,304	77,158,097	△ 9,210,793
雑費　支出	261,900	161,975	99,925
借入金等利息支出	**1,422,875**	**1,422,875**	**0**
借入金利息　支出	1,422,875	1,422,875	0
借入金等返済支出	**33,559,450**	**33,559,450**	**0**
借入金返済　支出	33,559,450	33,559,450	0
施設関係支出	**579,368,613**	**415,269,760**	**164,098,853**
土地　支出	66,520,653	1,862,836	64,657,817
建物　支出	440,633,301	137,906,968	302,726,333
構築物　支出	72,214,659	16,236,603	55,978,056
建設仮勘定　支出	0	259,263,353	△ 259,263,353
設備関係支出	**148,587,191**	**147,870,321**	**716,870**
教育研究用機器備品支出	104,959,014	104,959,014	0
管理用機器備品　支出	9,861,669	8,011,469	1,850,200
図書　支出	12,536,788	11,139,188	1,397,600
車両　支出	20,149,720	20,082,688	67,032
ソフトウェア　支出	1,080,000	3,677,962	△2,597,962

(単位:円)

科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
資産運用支出	**68,000,000**	**68,000,000**	**0**
第２号基本金引当特定資産繰入支出	50,000,000	50,000,000	0
設備資金引当特定資産繰入支出	4,000,000	4,000,000	0
減価償却引当特定資産繰入支出	14,000,000	14,000,000	0
その他の支出	**238,802,692**	**244,113,040**	**△5,310,348**
前期末未払金支払支 出	182,873,543	182,873,543	0
前 払 金 支 払　支 出	36,000	3,200,338	△3,164,338
立　替　金　支 出	1,548,079	507,055	1,041,024
修学旅行費積立預金 支 出	53,058,175	53,154,636	△96,461
修学旅行費積立預り金 支 出	1,261,945	4,202,518	△2,940,573
敷　　金　支 出	0	150,000	△150,000
預　託　金 支 出	24,950	24,950	0
〔予　　備　　費〕	(14,430,000) 0		0
資金支出調整勘定	**△87,695,659**	**△133,990,935**	**46,295,276**
期末　　未払金	△73,859,101	△120,154,377	46,295,276
前期末　前払金	△13,836,558	△13,836,558	0
翌年度繰越支払資金	1,845,602,513	2,023,827,631	△178,225,118
支出の部 合 計	**6,568,545,271**	**6,520,895,095**	**47,650,176**

注　記

予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

人件費支出	(944,119)
教 員 人 件 費　支 出	874,433
役員報酬　支 出	69,686
教育研究経費支出	(8,833,853)
消 耗 品 費　支 出	5,779,984
光 熱 水 費　支 出	2,501,641
通 信 運 搬 費　支 出	154,949
衛 生 清 掃 費　支 出	397,279
管理経費支出	(951,072)
旅 費 交 通 費　支 出	926,523
車 両 燃 料 費　支 出	24,549
借入金等利息支出	(24,109)
借 入 金 利 息　支 出	24,109
設備関係支出	(3,676,847)
教育研究用機器備品支出	3,676,847
合　　計	(14,430,000)

活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書

平成２９年４月　１日から

平成３０年３月３１日まで

(単位:円)

		科　　目	金　　額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	2,328,657,929
		手数料収入	42,637,395
		特別寄付金収入	39,116,400
		一般寄付金収入	29,807,535
		経常費等補助金収入	1,420,131,850
		付随事業収入	97,600,134
		雑収入	163,417,699
		教育活動資金収入計	4,121,368,942
	支出	人件費支出	2,708,495,184
		教育研究経費支出	791,885,246
		管理経費支出	220,442,523
		教育活動資金支出計	3,720,822,953
	差引		400,545,989
	調整勘定等		△30,562,161
	教育活動資金収支差額		369,983,828
施設整備等活動による資金収支		科　　目	金　　額
	収入	施設設備寄付金収入	9,260,211
		施設設備補助金収入	6,488,000
		施設設備売却収入	20,000
		預　託　金 収 入	15,000
		施設整備等活動資金収入計	15,783,211
	支出	施設関係支出	415,269,760
		設備関係支出	147,870,321
		第２号基本金引当特定資産繰入支出	50,000,000
		設備資金引当特定資産繰入支出	4,000,000
		減価償却引当特定資産繰入支出	14,000,000
		預　託　金 支 出	24,950
		施設整備等活動資金支出計	631,165,031
	差引		△615,381,820
	調整勘定等		△31,762,130
	施設整備等活動資金収支差額		△647,143,950
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)			△277,160,122
その他の活動による資金収支		科　　目	金　　額
	収入	第３号基本金引当特定資産取崩収入	20,000,000
		小計	20,000,000
		受取利息･配当金収入	2,562,296
		預　り　金　収 入	7,145,668
		立　替　金　収 入	354,690
		仮　払　金 収 入	41,999
		仮　受　金　収 入	1,368
		修学旅行積立預金　収 入	57,357,154
		その他の活動資金収入計	87,463,175
	支出	借入金等返済支出	33,559,450
		小計	33,559,450
		借入金等利息支出	1,422,875
		預　り　金　支 出	4,212,264
		立　替　金　支 出	861,745
		修学旅行積立預金　支 出	53,154,636
		修学旅行積立預り金支 出	4,202,518
		敷　　金　支 出	150,000
		その他の活動資金支出計	97,563,488
	差引		△10,100,313
	調整勘定等		19,009,450
	その他の活動資金収支差額		8,909,137
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)			△268,250,985
前 年 度 繰 越 支 払 資 金			2,292,078,616
翌 年 度 繰 越 支 払 資 金			2,023,827,631

注　記

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおりである。

(単位:円)

	資金収支 計算書計上額	教育活動 による資金収支	施設整備等活動 による資金収支	その他の活動 による資金収支
前受金収入	383,758,737	383,758,737	0	0
前期末未収入金収入	251,690,077	227,680,627	5,000,000	19,009,450
期末未収入金	△183,741,499	△182,653,499	△1,088,000	0
前期末前受金	△442,939,210	△442,939,210	0	0
収入計	8,768,105	△14,153,345	3,912,000	19,009,450
前期末未払金支払支出	182,873,543	103,485,728	79,387,815	0
前払金支払支出	3,200,338	2,674,447	0	525,891
期末未払金	△120,154,377	△76,570,897	△43,583,480	0
前期末前払金	△13,836,558	△13,180,462	△130,205	△525,891
支出計	52,082,946	16,408,816	35,674,130	0
収入計　-　支出計	△43,314,841	△30,562,161	△31,762,130	19,009,450

事　業　活　動　収　支　計　算　書

平成２９年４月　１日から
平成３０年３月３１日まで

(単位:円)

		科　　目	予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動収入の部	**学生生徒等納付金**	**2,321,285,304**	**2,328,657,929**	**△ 7,372,625**
		授　業　料	1,536,644,604	1,536,311,875	332,729
		入　学　金	202,524,000	203,710,000	△ 1,186,000
		実験実習料	59,328,200	65,608,804	△ 6,280,604
		施設設備費	189,410,000	189,250,050	159,950
		教育充実費	318,971,400	319,306,200	△ 334,800
		学園維持費	14,407,100	14,471,000	△ 63,900
		手数料	**45,551,000**	**42,637,395**	**2,913,605**
		入学検定料	44,408,000	41,264,000	3,144,000
		試　験　料	768,000	945,690	△ 177,690
		証明手数料	375,000	427,705	△ 52,705
		寄付金	**72,304,710**	**69,317,055**	**2,987,655**
		特別寄付金	47,259,710	39,116,400	8,143,310
		一般寄付金	25,045,000	29,807,535	△ 4,762,535
		現物寄付	0	393,120	△ 393,120
		経常費等補助金	**1,427,577,264**	**1,420,131,850**	**7,445,414**
		国庫補助金	179,104,000	145,695,000	33,409,000
		地方公共団体補助金	1,248,473,264	1,274,436,850	△ 25,963,586
		付随事業収入	**86,038,147**	**97,634,499**	**△ 11,596,352**
		補助活動収入	84,294,147	94,010,121	△ 9,715,974
		受託事業収入	1,200,000	1,971,378	△ 771,378
		公開講座収入	544,000	1,653,000	△ 1,109,000
		雑収入	**138,649,666**	**163,417,699**	**△ 24,768,033**
		施設設備利用料	8,515,160	10,545,076	△ 2,029,916
		廃品売却収入	20,000	24,112	△ 4,112
		退職金財団等交付金	110,129,098	129,438,203	△ 19,309,105
		その他の雑収入	19,985,408	23,410,308	△ 3,424,900
		教育活動収入計	**4,091,406,091**	**4,121,796,427**	**△ 30,390,336**
	事業活動支出の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		人件費	**2,656,719,291**	**2,688,256,479**	**△ 31,537,188**
		教員人件費	2,064,189,098	2,074,368,226	△ 10,179,128
		職員人件費	474,025,461	486,063,347	△ 12,037,886
		役員報酬	8,158,634	8,158,634	0
		退職給与引当金繰入額	47,859,600	47,628,695	230,905
		退　職　金	62,486,498	72,037,577	△ 9,551,079
		教育研究経費	**1,132,621,329**	**1,079,958,852**	**52,662,477**
		消耗品費	74,386,151	74,386,151	0
		光熱水費	82,152,956	82,152,956	0
		旅費交通費	32,406,313	31,699,110	707,203
		車両燃料費	1,664,992	1,511,483	153,509
		奨学費	264,674,150	264,292,400	381,750
		教育実習諸経費	20,377,052	13,766,505	6,610,547
		生徒福利費	29,904,123	28,798,983	1,105,140
		通信運搬費	15,233,843	15,233,843	0
		印　刷　費	13,910,989	11,915,095	1,995,894
		施設設備修理費	76,691,671	49,560,928	27,130,743
		衛生清掃費	12,933,893	12,933,893	0
		損害保険料	10,771,337	9,794,475	976,862
		賃　借　料	20,436,452	20,088,954	347,498
		公租公課	1,501,466	1,409,117	92,349
		諸　会　費	12,379,982	11,799,088	580,894
		会　議　費	270,880	94,740	176,140
		報酬・委託・手数料	143,952,258	140,592,735	3,359,523
		行　事　費	2,230,000	2,141,388	88,612
		研究旅費	13,160,000	6,226,464	6,933,536
		研究経費	19,000,000	13,437,139	5,562,861
		雑　費	580,072	442,919	137,153
		減価償却額	284,002,749	287,680,486	△ 3,677,737

(単位:円)

		科　　目	予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動支出の部	管理経費	278,650,210	262,889,400	15,760,810
		消耗品費	11,014,254	9,803,766	1,210,488
		光熱水費	10,720,289	9,754,829	965,460
		旅費交通費	16,106,478	16,106,478	0
		車両燃料費	233,194	233,194	0
		福利厚生費	7,417,453	7,297,194	120,259
		通信運搬費	7,341,569	6,427,626	913,943
		印刷費	20,256,866	18,882,166	1,374,700
		施設設備修理費	23,832,836	10,864,692	12,968,144
		衛生清掃費	2,370,042	1,521,672	848,370
		損害保険料	1,102,466	844,343	258,123
		賃借料	12,546,465	12,246,991	299,474
		公租公課	5,212,560	4,289,597	922,963
		消費税	1,740,000	682,700	1,057,300
		広告費	31,674,506	30,948,608	725,898
		諸会費	5,771,315	5,276,933	494,382
		会議費	8,000	0	8,000
		交際費	10,485,348	7,941,662	2,543,686
		報酬・委託・手数料	67,947,304	77,158,097	△ 9,210,793
		雑費	261,900	161,975	99,925
		減価償却額	42,607,365	42,446,877	160,488
		徴収不能額等	0	3,394,000	△ 3,394,000
		徴収不能引当金繰入額	0	3,394,000	△ 3,394,000
		教育活動支出計	4,067,990,830	4,034,498,731	33,492,099
		教育活動収支差額	23,415,261	87,297,696	△ 63,882,435
教育活動外収支	事業活動収入の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		受取利息・配当金	2,586,712	2,562,296	24,416
		第３号基本金引当特定資産運用収入	456,095	456,503	△ 408
		その他の受取利息・配当金	2,130,617	2,105,793	24,824
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	2,586,712	2,562,296	24,416
	事業活動支出の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		借入金等利息	1,422,875	1,422,875	0
		借入金利息	1,422,875	1,422,875	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	1,422,875	1,422,875	0
		教育活動外収支差額	1,163,837	1,139,421	24,416
		経常収支差額	24,579,098	88,437,117	△ 63,858,019
特別収支	事業活動収入の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		資産売却差額	1,000	20,000	△ 19,000
		設備売却差額	1,000	20,000	△ 19,000
		その他の特別収入	9,677,600	16,281,275	△ 6,603,675
		施設設備寄付金	8,360,000	9,260,211	△ 900,211
		現物寄付	229,600	533,064	△ 303,464
		施設設備補助金	1,088,000	6,488,000	△ 5,400,000
		特別収入計	9,678,600	16,301,275	△ 6,622,675
	事業活動支出の部	科　　目	予　算	決　算	差　異
		資産 処分 差額	3,707,800	4,840,735	△ 1,132,935
		施設処分差額	1,506,245	2,741,023	△ 1,234,778
		設備処分差額	2,201,555	2,099,712	101,843
		その他の特別支出	22,262,000	22,262,000	0
		退職給与引当金特別繰入額	22,262,000	22,262,000	0
		特別支出計	25,969,800	27,102,735	△ 1,132,935
		特別収支差額	△ 16,291,200	△ 10,801,460	△ 5,489,740
〔予　備　費〕			(14,430,000) 0		0
基本金組入前当年度収支差額			8,287,898	77,635,657	△ 69,347,759
基本金組入額合計			△ 774,762,614	△ 601,776,488	△ 172,986,126
当年度収支差額			△ 766,474,716	△ 524,140,831	△ 242,333,885
前年度繰越収支差額			△ 4,643,900,447	△ 4,643,900,447	0
基本金取崩額			20,000,000	23,000,000	△ 3,000,000
翌年度繰越収支差額			△ 5,390,375,163	△ 5,145,041,278	△ 245,333,885

(参考)

事業活動収入計	4,103,671,403	4,140,659,998	△ 36,988,595
事業活動支出計	4,095,383,505	4,063,024,341	32,359,164

注　記

１．退職給与引当金特別繰入額は、「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異222,621,180円について平成23年度から10年で均等に繰り入れた額である。

２．予備費の使用額の内訳は、下記のとおりである。

人件費	(944,119)
教員人件費	874,433
役員報酬	69,686
教育研究経費	(12,510,700)
消耗品費	6,173,104
光熱水費	2,501,641
通信運搬費	154,949
衛生清掃費	397,279
減価償却額	3,283,727
管理経費	(951,072)
旅費交通費	926,523
車両燃料費	24,549
借入金等利息	(24,109)
借入金利息	24,109
合計	(14,430,000)

貸　借　対　照　表

平成３０年３月３１日

（単位：円）

資　産　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定資産	**13,569,681,319**	**13,302,173,808**	**267,507,511**
有形固定資産	**12,235,985,733**	**12,006,991,944**	**228,993,789**
土　　地	2,372,352,196	2,370,489,360	1,862,836
建　　物	7,802,588,868	7,891,444,833	△ 88,855,965
構　築　物	400,957,089	414,326,481	△ 13,369,392
教育研究用機器備品	563,342,149	517,851,927	45,490,222
管理用機器備品	37,898,250	34,749,744	3,148,506
図　　書	738,135,297	726,962,005	11,173,292
車　　両	58,948,531	48,667,594	10,280,937
建設仮勘定	261,763,353	2,500,000	259,263,353
特定資産	**1,312,000,000**	**1,264,000,000**	**48,000,000**
第２号基本金引当特定資産	50,000,000	0	50,000,000
第３号基本金引当特定資産	200,000,000	220,000,000	△ 20,000,000
退職給与引当特定資産	9,000,000	9,000,000	0
設備資金引当特定資産	107,000,000	103,000,000	4,000,000
減価償却引当特定資産	946,000,000	932,000,000	14,000,000
その他の固定資産	**21,695,586**	**31,181,864**	**△ 9,486,278**
電話加入権	2,856,908	2,856,908	0
ソフトウェア	9,682,540	9,971,282	△ 288,742
有価証券	5,619,410	5,619,410	0
長期未収入金	3,063,538	12,421,024	△ 9,357,486
敷　　金	150,000	0	150,000
預　託　金	223,190	213,240	9,950
出　資　金	100,000	100,000	0
流動資産	**2,264,690,242**	**2,609,265,636**	**△ 344,575,394**
現　金　預　金	2,023,827,631	2,292,078,616	△ 268,250,985
未　収　入　金	190,929,428	252,914,520	△ 61,985,092
貯　蔵　品	199,400	206,379	△ 6,979
立　替　金	5,031,950	4,524,895	507,055
仮　払　金	0	41,999	△ 41,999
前　払　金	7,854,535	18,490,755	△ 10,636,220
修学旅行費積立預金	29,365,124	33,567,642	△ 4,202,518
販　売　用　品	7,482,174	7,440,830	41,344
資産の部合計	**15,834,371,561**	**15,911,439,444**	**△ 77,067,883**

負　債　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定負債	**1,780,478,610**	**1,814,402,820**	**△ 33,924,210**
長期借入金	1,317,593,538	1,377,221,024	△ 59,627,486
長期未払金	51,787,944	28,107,963	23,679,981
退職給与引当金	411,097,128	409,073,833	2,023,295
流動負債	**656,898,893**	**777,678,223**	**△ 120,779,330**
短期借入金	59,627,486	33,559,450	26,068,036
未　払　金	95,703,276	182,102,423	△ 86,399,147
前　受　金	383,758,737	442,939,210	△ 59,180,473
預　り　金	88,442,902	85,509,498	2,933,404
仮　受　金	1,368	0	1,368
修学旅行費積立預り金	29,365,124	33,567,642	△ 4,202,518
負債の部合計	**2,437,377,503**	**2,592,081,043**	**△ 154,703,540**

純　資　産　の　部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
基本金	**18,542,035,336**	**17,963,258,848**	**578,776,488**
第１号基本金	18,023,035,336	17,471,258,848	551,776,488
第２号基本金	50,000,000	0	50,000,000
第３号基本金	200,000,000	220,000,000	△ 20,000,000
第４号基本金	269,000,000	272,000,000	△ 3,000,000
繰越収支差額	**△ 5,145,041,278**	**△ 4,643,900,447**	**△ 501,140,831**
翌年度繰越収支差額	△ 5,145,041,278	△ 4,643,900,447	△ 501,140,831
純資産の部合計	**13,396,994,058**	**13,319,358,401**	**77,635,657**
負債及び純資産の部合計	**15,834,371,561**	**15,911,439,444**	**△ 77,067,883**

注　記

1．重要な会計方針

（1）引当金の計上基準

徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

退職給与引当金の算定方法は、次のとおりである。

（法人本部） （聖カタリナ大学） （聖カタリナ大学短期大学部）	退職金の支給に備えるため、期末要支給額398,018,600円の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。 なお、「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異222,621,180円については、平成23年度から10年で毎年度均等に繰り入れている。
（聖カタリナ学園高等学校）	期末要支給額344,265,568円と愛媛県私立学校退職金社団よりの交付金339,432,879円との差額を計上している。
（京都聖カタリナ高等学校）	期末要支給額116,177,150円と京都府私学退職金財団よりの交付金115,285,150円との差額を計上している。
（光ヶ丘女子高等学校）	期末要支給額297,165,618円は愛知県私学退職基金財団よりの交付金と同額であるため、退職給与引当金は計上していない。
（聖マリア幼稚園） （聖家族幼稚園） （聖カタリナ幼稚園） （ロザリオ幼稚園） （聖カタリナ大学短期大学部附属幼稚園）	各幼稚園は、各府県私学退職金団体よりの交付金と同額であるため、退職給与引当金は計上していない。

（2）その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法は移動平均法に基づく原価法である。

預り金その他経過項目に係る収支の表示方法

預り金、立替金、仮払金、仮受金、修学旅行積立預り金に係る収入と支出は相殺して表示している。

食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法

補助活動に係る収支は純額で表示している。

2．重要な会計方針の変更等

なし

3．減価償却額の累計額の合計額　6,814,375,303 円

4．徴収不能引当金の合計額　3,394,000 円

5．担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土　　地	774,133,950円
建　　物	2,019,571,089円

6．翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入を行うこととなる金額　1,039,865,148円

7．当該会計年度の末日において第４号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策

第４号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

８．その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

（１）有価証券の時価情報

①　総括表

（単位　円）

	当年度(平成３０年３月３１日)		
	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	5,619,410	21,777,840	16,158,430
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	0	0	0
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
合　　計	5,619,410	21,777,840	16,158,430
（うち満期保有目的の債券）	(0)	(0)	(0)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,619,410		

②　明細表

（単位　円）

種類	当年度(平成３０年３月３１日)		
	貸借対照表計上額	時　　価	差　　額
債券	0	0	0
株式	5,619,410	21,777,840	16,158,430
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合　　計	5,619,410	21,777,840	16,158,430
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	5,619,410		

（２）通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	53,910,432円	29,570,523円
管理用機器備品	23,131,008円	18,169,434円

（３）純額で表示した補助活動に係る収支

純額で表示した補助活動に係る収支の相殺した科目及び金額は次のとおりである。

（単位　円）

支　　出	金　　額	収　　入	金　　額
人件費支出	2,931,462	補助活動収入(売上高)	282,295,607
管理経費支出(経費支出)	201,029,889	受取利息・配当金収入	230
		雑収入	15,641,270
計	203,961,351	計	297,937,107
純額			93,975,756

（４）退職給与引当金の計上

「退職給与引当金の計上等に係る会計方針の統一について」(平成23年2月17日付け22高私参第11号文部科学省高等教育局私学部参事官通知)に基づく変更時差異は222,621,180円、退職給与引当金特別繰入額の累積額は155,835,180円、繰入年数は10年、経過処理年数は7年である。

財　産　目　録

平成３０年３月３１日

学校法人聖カタリナ学園
（単位：円）

１．資　産　の　部	
科　　目	金額
固 定 資 産	**13,569,681,319**
有形固定資産	**12,235,985,733**
土地	2,372,352,196
建物	7,802,588,868
構築物	400,957,089
教育研究用機器備品	563,342,149
管理用機器備品	37,898,250
図書	738,135,297
車両	58,948,531
建設仮勘定	261,763,353
特定資産	**1,312,000,000**
第２号基本金引当特定資産	50,000,000
第３号基本金引当特定資産	200,000,000
退職給与引当特定資産	9,000,000
設備資金引当特定資産	107,000,000
減価償却引当特定資産	946,000,000
その他の固定資産	**21,695,586**
電 話 加 入 権	2,856,908
ソフトウェア	9,682,540
有 価 証 券	5,619,410
長 期 未 収 入 金	3,063,538
敷金	150,000
預託金	223,190
出資金	100,000
流 動 資 産	**2,264,690,242**
現金預金	2,023,827,631
未収入金	190,929,428
貯蔵品	199,400
立替金	5,031,950
前払金	7,854,535
修学旅行費積立預金	29,365,124
販売用品	7,482,174
資産の部合計	**15,834,371,561**

２．負　債　の　部	
科　　目	金額
固 定 負 債	**1,780,478,610**
長期借入金	1,317,593,538
長期未払金	51,787,944
退職給与引当金	411,097,128
流 動 負 債	**656,898,893**
短期借入金	59,627,486
未払金	95,703,276
前受金	383,758,737
預り金	88,442,902
仮受金	1,368
修学旅行費積立預り金	29,365,124
負債の部合計	**2,437,377,503**

３．差引正味財産	**13,396,994,058**

上記は財産目録に相違ない。

学校法人聖カタリナ学園
理事長　中　田　　婦　美　子

COPY

平成30年5月19日

平成29年度監事監査報告書

学校法人聖カタリナ学園　理 事 会殿
同　　評議員会殿

学校法人聖カタリナ学園
監 事
森 本 三 義
監 事
則 久 秀 行

私ども学校法人聖カタリナ学園の監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人聖カタリナ学園寄附行為第 11 条第 2 項の規定に基づき、平成 29 年度(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)における業務並びに財産の状況について監査しました。

その結果につき、下記の通り報告いたします。

記

1. 監査の概要

私たちは監査に当たり、理事会及び評議員会、その他重要な会議に出席するほか、理事及び職員等から事業の執行報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、内部監査担当者から内部監査結果を聴取しました。また、会計監査人(愛光監査法人)と連携を図り、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査手続きを実施しました。

2. 監査の結果

(1)学校法人聖カタリナ学園の業務に関する決定及び執行は適切であると認めます。

(2)本法人の計算書類、すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表(固定資産明細表、借入金明細表、基本金明細表を含む。)並びに財産目録は、会計帳簿の記録と合致し、本法人の収支及び財産の状況を正しく表示していることを認めます。

(3)所轄庁または理事会及び評議員会に報告すべき本法人の業務または財産に関し不正の行為、または、法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以 上